北区埋蔵文化財調査年報

―平成29年度―

東京都北区教育委員会

北区埋蔵文化財調査年報

―平成 29 年度―

2019

東京都北区教育委員会

北区埋蔵文化財調査年報

－平成 29 年度－

２０１９

東京都北区教育委員会

例　　言

1．本書は、平成 29 年度に実施した、北区内における埋蔵文化財発掘調査等の結果を報告するものである。

2．本書は、文化財保護法第 99 条に基づき北区教育委員会が調査主体者となり実施した、埋蔵文化財本発掘調査、試掘調査、確認調査の結果報告を主とする。

3．本書の編集は、北区教育委員会（担当：牛山英昭）によるものである。

4．各報告文の執筆・作成は、北区教育委員会の監修・指導のもと、発掘調査等の作業に従事した株式会社東京航業研究所の調査員（宅間清公・遠竹陽一郎）がこれにあたった。

5．本書に掲載された発掘調査等の出土遺物や記録類については、北区教育委員会が保管している。

6．本書に収録される調査および本書の作成にあたり、以下の諸機関よりご指導、ご協力を賜った。
株式会社オープンハウス・ディベロップメント
株式会社東京航業研究所
東京都教育庁地域教育支援部管理課

平成 29 年度　届出・通知件数　照会・立会実施等件数

届出・通知	法第 92 条：	5 件	照　　会：	2964 件
	法第 93 条：	96 件	立会実施：	49 件
	法第 94 条：	3 件	慎重工事：	7 件
	法第 97 条：	1 件		

平成 29 年度　北区埋蔵文化財発掘調査一覧

民間事業（法第 92 条および法第 99 条による調査）

遺跡№	遺跡名	所在地	北緯 東経	調査種類	調査面積 （㎡）	調査期間	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
42	豊島馬場遺跡	王子 5-21-1	35°　46′　07″ 139°　44′　17″	試掘調査	216	29.12.1-29.12.26	集合住宅			なし	なし	
41	田端西台通遺跡	田端 5-11-8	35°　44′　21″ 139°　45′　22″	本発掘調査	427	30.1.11-30.3.24	保育所	（平成 30 年度報告書刊行予定）				
27	西ヶ原遺跡群	上中里 1-35	35°　44′　40″ 139°　44′　52″	本発掘調査	22.6	30.1.25-30.2.5	分譲住宅	（報告書抄録を参照）				本書収録

補助金事業（本書収録）

遺跡№	遺跡名	所在地	北緯 東経	調査種類	調査面積 （㎡）	調査期間	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
27	西ヶ原遺跡群	上中里 1-33	35°　44′　38″ 139°　44′　51″	試掘調査	7.0	29.4.5	個人住宅			なし	なし	
41	田端西台通遺跡	田端 6-3-20	35°　44′　19″ 139°　45′　30″	試掘調査	8.3	29.4.25	集合住宅			なし	なし	
17	梅ノ木遺跡	西が丘 1-28-7	35°　46′　7″ 139°　42′　48″	試掘調査	9.8	29.5.1	個人住宅			なし	なし	
40	中里峡上遺跡	中里 3-16-24	35°　44′　35″ 139°　45′　8″	確認調査	51.8	29.5.24-29.5.25	個人住宅	集落	平安時代	竪穴住居跡 2 軒	弥生土器 土師器 須恵器	
18	清水坂遺跡	中十条 4-6	35°　46′　3″ 139°　43′　24″	試掘調査	13.9	29.6.7	個人住宅			なし	なし	
40	中里峡上遺跡	上中里 1-11-17	35°　44′　39″ 139°　45′　1″	試掘調査	14.2	29.6.9	集合住宅			なし	なし	

遺跡№	遺跡名	所在地	北緯 東経	調査種類	調査面積 （㎡）	調査期間	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
4	袋低地遺跡	赤羽北 2-22	35° 47′ 6″ 139° 42′ 36″	試掘調査	29.6	29.7.20-29.7.21	集合住宅			なし	なし	
39	下十条遺跡	滝野川 4-27-1	35° 45′ 7″ 139° 43′ 29″	試掘調査	19.0	29.8.2	集合住宅			なし	なし	
40	中里峡上遺跡	中里 3-16-24	35° 44′ 35″ 139° 45′ 8″	試掘調査	8.6	29.8.21	個人住宅			なし	なし	
27	西ヶ原遺跡群 （西ヶ原貝塚）	西ヶ原 3-6-20	35° 44′ 36″ 139° 44′ 33″	確認調査	8.0	29.10.2	個人住宅	貝塚	縄文時代 晩期	整地層	縄文土器	
32	田端不動坂遺跡	田端 1-24	35° 44′ 8″ 139° 45′ 41″	試掘調査	7.4	29.10.11	分譲住宅			なし	なし	
19	十条台遺跡群 （南橋遺跡）	中十条 1-3-19	35° 45′ 29″ 139° 43′ 51″	試掘調査	27.6	29.11.6	個人住宅			なし	なし	
19	十条台遺跡群 （南橋遺跡）	中十条 1-3-19	35° 45′ 29″ 139° 43′ 51″	確認調査	39.2	29.11.7-29.11.13	個人住宅	集落	古墳時代 前期・中期	溝跡２条	弥生土器 土師器	
40	中里峡上遺跡	中里 3-16-24	35° 44′ 36″ 139° 45′ 8″	試掘調査	6.3	29.12.11	個人住宅	（確認調査を実施）				
40	中里峡上遺跡	中里 3-16-24	35° 44′ 36″ 139° 45′ 8″	確認調査	9.8	29.12.12-29.12.13	個人住宅	集落	平安時代	竪穴住居跡 ピット	土師器 須恵器 弥生土器	
27	西ヶ原遺跡群	上中里 1-35	35° 44′ 40″ 139° 44′ 52″	試掘調査	18.8	29.12.25	分譲住宅	（法第 99 条による本発掘調査を実施）				
32	田端不動坂遺跡	田端 1-24	35° 44′ 8″ 139° 45′ 42″	試掘調査	2.3	30.1.11	個人住宅			なし	なし	
19	十条台遺跡群	中十条 1-26-9	35° 45′ 43″ 139° 43′ 39″	試掘調査	9.0	30.1.24	分譲住宅			なし	なし	
27	西ヶ原遺跡群	西ヶ原 3-7-15	35° 44′ 33″ 139° 44′ 35″	試掘調査	7.0	30.1.29	個人住宅			なし	なし	
43	宮堀北遺跡	志茂 3-8	35° 46′ 37″ 139° 44′ 7″	試掘調査	5.0	30.2.6	個人住宅			なし	なし	
40	中里峡上遺跡	中里 3-11-13	35° 44′ 27″ 139° 45′ 11″	試掘調査	43.7	30.2.14-30.2.15	集合住宅	（平成 30 年度　民間調査組織による本発掘調査を実施）				

平成 29 年度区内遺跡本発掘調査
・試掘調査・確認調査概要報告

＜はじめに＞

平成 29 年度に実施された、国庫補助金対象事業である区内遺跡の埋蔵文化財本発掘調査および試掘調査、確認調査の概要を報告する。当該年度は、21 件の試掘調査・確認調査を実施した（第 26 図）。いずれも、「周知の埋蔵文化財包蔵地」に該当するものであり、文化財保護法（以下、法）第 93 条第 1 項に基づく届出を経て、法第 99 条に基づき調査を実施したものである。

＜試掘・確認調査＞

1．西ヶ原遺跡群（地点：上中里 1-33　第 1 図　図版 1 ・27- 1 ）

〔調査期間〕　平成 29 年 4 月 5 日

〔調査面積〕　7.0 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、対象地内に試掘坑（1.0 × 7.0m）を 1 箇所設定し、人力により表土掘削を行った。現地表下 0.5 ～ 0.6m 程でソフトロームの地山を検出した。その後、遺構確認を行ったが、遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、人力により埋め戻しを行い、機材を搬出し調査を終了した。

現地表下 0.5 ～ 0.6m まで盛土・攪乱・耕作土であった。その下の地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層）である。

2．田端西台通遺跡（地点：田端 6-3-20　第 2 図　図版 2 ・27- 2 ）

〔調査期間〕　平成 29 年 4 月 25 日

〔調査面積〕　8.3 ㎡

〔調査概要〕　重機・機材搬入後、対象地内に東試掘坑（0.85 × 4.75m）、西試掘坑（0.90 × 4.75m）の 2 箇所を設定し、重機により表土掘削を行った。現地表下 0.4 ～ 0.5m 程でソフトロームの地山を検出した。その後、遺構確認を行ったが、遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終了した。

現地表下 0.4 ～ 0.5m まで盛土・攪乱・耕作土であった。その下の地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層）である。

3．梅ノ木遺跡（地点：西が丘 1-28-7　第 3 図　図版 3 ・27- 3 ）

〔調査期間〕　平成 29 年 5 月 1 日

〔調査面積〕　9.8 ㎡

〔調査概要〕　重機・機材搬入後、対象地内の中央部分に試掘抗（1.0 × 9.8m）を 1 箇所設定し、重機により表土掘削を行った。現地形は調査対象地の西側が東側に比べ 1 .0m 程低くなっていたが、その低い部分は攪乱されていた。東側の高い部分は、1.2m 程の深さでロームに達した。その後、遺構確認を行ったが、遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終了した。　現地表下約 1.2m まで盛土・攪乱・耕作土であった。その下の地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層）である。

4．中里峡上遺跡（地点：中里 3-16-24　第 4 ・ 5 図　図版 4 ・ 5 ・27- 4 ）

〔調査期間〕　平成 29 年 5 月 24 日～平成 29 年 5 月 25 日

〔調査面積〕　51.8 ㎡

〔調査概要〕【A 地点】重機・機材搬入後、重機により表土掘削を行った。表土下 0.7 ～ 0.8m で遺構を検出した。

検出された遺構は竪穴住居跡 2 軒である。遺構の図面作成後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を

搬出し調査を終了した。

現地表下 0.7 ～ 0.8m まで盛土･攪乱であった。その下の地山はローム層（立川ローム第Ⅲ･Ⅳ層）である。

【B 地点】 重機･機材搬入後、重機により表土掘削を行った。設計深度の地表下 0.85m まで掘り下げたが、大半は攪乱であった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、重機･機材を搬出し調査を終了した。

現地表下約 0.5m まで盛土・攪乱・耕作土であった。その下は攪乱とソフトロームの地山（立川ローム第Ⅲ層）である。

〔遺構・遺物〕

【SI01】

遺構（第４図　図版４）

平面形：隅丸方形。**規模**：主軸検出長 2.58m 以上、主軸直交検出長 3.42m、確認面からの深さ 0.15m。**主軸方位**：Ｎ－ 54°－ W。**覆土**：暗褐色を基本とする自然堆積。壁際に三角堆積が認められる。**床**：平坦であるが一部に凹凸が認められる。北壁中央付近から 0.46 × 0.43 m程の範囲で焼土が認められる。竈前面から南北壁沿いを除き硬化面が認められる。**竈**：西壁北側部分に築かれている。遺存状態は悪く、左袖の一部が残るのみである。大きさは 0.78 × 0.68m で、煙道部が住居壁外へ延びるものと思われる。**壁溝**：幅 0.30m 程度、床面からの深さ 0.14m の壁溝が確認された。**所見**：調査区南東端で検出され、全体の２/ ３程を調査したものと考えられる。

遺物（第５図　図版５）

出土状況：１～７が覆土中から出土した。**遺物**：１は須恵器の坏、２は須恵器の甕、３は土師器の武蔵型甕、４は須恵系土師質土器の高台付坏、５は須恵系土師質土器の坏、６は砥石、７は縄文土器の深鉢である。

時期　出土遺物から９世紀後半の住居跡と思われる。

【SI02】

遺構（第４図　図版４）

平面形：－。**規模**：主軸検出長 1.22m、主軸直交検出長 0.63m、確認面からの深さ床面のみ検出。**主軸方位**：Ｎ－ 77°－ W。**壁溝**：確認されなかった。**所見**：昨年度調査の SI02 と同一と考えられるが、攪乱が激しく硬化した床の一部が確認できただけであった。**ピット１**：硬化面と攪乱の境から検出された。覆土から本住居跡に伴うピットと考えられる。円形で規模は 0.22 × 0.20m である。床面からの深さは 0.18m である。

遺物　本遺構からの出土遺物はない。

時期　不明。

５．清水坂遺跡（地点：中十条 4-6　第６図　図版６・27- ５）

〔調査期間〕　平成 29 年６月７日

〔調査面積〕　13.9 ㎡

〔調査概要〕　重機・機材の搬入後、試掘坑を２箇所設定した。試掘坑１の規模は、1.0 × 6.8m、試掘坑２の規模は 1.0 × 7.1m である。重機による掘削を開始し、現況地表面から約 0.5m 下で、ローム漸移層とみられる堆積を検出した。これを遺構確認面とし、精査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。試掘坑の記録を作成し、重機による埋戻しを行い、重機・機材を搬出し、調査を終了した。

設計深度の地表下 0.5m まで、盛土・攪乱・耕作土層である。その下は地山で、ローム漸移層に相当する層（Ⅱ d'）と思われるが、ローム漸移層に比べ、締りが強く、色調が暗い。攪乱を利用したサブトレンチにより、Ⅱ d' の層厚は約 0.15m であり、その下は立川ロームⅢ層に相当すると思われる堆積（Ⅲ '）が確認された。Ⅲ ' 層は、立川ロームⅢ層に比べ、締りが強い印象である。

6．中里峡上遺跡（地点：上中里 1-11-17　第７図　図版７・27- ６）
〔調査期間〕　平成 29 年６月９日
〔調査面積〕　14.2 ㎡
〔調査概要〕　重機・機材搬入後、対象地内に試掘坑（1.0 × 14.2m）を１箇所設定した。試掘坑北側から重機による掘削に着手した。試掘坑北側では、攪乱が深く、現地表面から 1.0m 強掘り下げても、地山は確認されなかった。ピンポールでの深度確認でも、さらに 1.0m 以上、攪乱されているようである。試掘坑北側（崖側）の攪乱が深い部分以外でも、攪乱が著しく、浅い所で、現地表面から 0.4 ～ 0.5m 下に部分的に地山が確認できる程度であった。遺構･遺物は確認されず、試掘坑の記録の後、重機により埋戻し、重機・機材を搬出し、調査を終了した。
　浅い所で、現地表面から 0.4m 下で地山（立川ロームⅢ～Ⅳ層）を確認した。

7．袋低地遺跡（地点：赤羽北 2-2　第８図　図版８・27- ７）
〔調査期間〕　平成 29 年７月 20 日～平成 29 年７月 21 日
〔調査面積〕　29.6 ㎡
〔調査概要〕　重機・機材搬入後、対象地内に東試掘坑１（1.0 × 5.6m）、東試掘坑２（6.0 × 1.0m）、西試掘坑（1.0 × 18.0m）の３箇所を設定し、重機により表土掘削を行った。東試掘坑１の南西隅の地表下 1.8 ～ 1.9m 程でロームの二次堆積と思われる黄褐色の粘質土が、西試掘坑中央やや南側の地表下 1.4m 程で砂質土の地山を検出した。その他の部分は攪乱され、遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終了した。
　現地表下 2.0m 以上まで盛土・攪乱であった。部分的に粘質土や砂質土の地山が認められた。地形的には南側から北側に向かい傾斜しているものと考えられる。

8．下十条遺跡（地点：滝野川 4-27-1　第９図　図版９・27- ８）
〔調査期間〕　平成 29 年８月２日
〔調査面積〕　19.0 ㎡
〔調査概要〕　重機･機材搬入後、始めに対象地内中央部に南北方向の試掘坑１（1.0 × 13.0m）を設定し、重機により表土掘削を行った。埋め戻し後、さらに、地形を確認する目的で、試掘坑１の南端部に直交するように東西方向の試掘坑２（1.0 × 7.0m）を設定し調査を行った。
　試掘坑１北側は地表下 0.35m 程、南側は 0.65 ～ 0.90m 程でハードロームの地山が検出された。それより上は攪乱されていたため、自然堆積を確認することはできなかった。ハードロームの地山は南東方向に向かい低くなっており、現地形に沿っている。
　遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終了した。現地表下 0.35 ～ 0.90m 以上まで盛土・攪乱であった。地山はハードローム（立川ローム第Ⅳ層相当）で地形的には南東方向に向かい傾斜しているものと考えられる。

9．中里峡上遺跡（地点：中里 3-16-24　第 10 図　図版 10・27- ９）
〔調査期間〕　平成 29 年８月 21 日
〔調査面積〕　8.6 ㎡
〔調査概要〕　重機・機材搬入後、対象地内中央部に南北方向の試掘坑（1.0 × 8.6m）を１箇所設定し、重機により表土掘削を行った。現地表下 0.5 ～ 0.6m 程でソフトロームの地山が検出された。それより上は攪乱されていたため、自然堆積を確認することはできなかった。
　遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終

了した。現地表下 0.5 ～ 0.6m まで攪乱であった。地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層相当）である。

10. 西ヶ原遺跡群（西ヶ原貝塚）（地点：西ヶ原 3-6-20　第 11・12 図　図版 11・12・28-10）
〔調査期間〕　平成 29 年 10 月 2 日
〔調査面積〕　8.0 ㎡
〔調査概要〕　重機・機材搬入後、始めに対象地内中央部に南北方向の試掘坑（1.00 × 4.95m）を 1 箇所設定し、重機により表土掘削を行った。埋め戻しの後、試掘坑 1 に直交するように東西方向の試掘坑 2（1.00 × 4.00m）を設定し、同様に重機により掘削を行った。

現地表下 1.3 ～ 1.4m 程でソフトロームの地山が検出された。この地山を覆う土は、上から攪乱層（0.30m）、暗褐色土（0.75 ～ 0.85m）、黒褐色土（0.10 ～ 0.25m）の堆積が認められた。ソフトロームの上層に漸移層を介さないことから、人為的に地形を改変した可能性も考えられる。

遺物は黒褐色土層中から縄文土器が出土した。多くは下層のソフトローム直上で出土している。出土遺物は縄文時代晩期の土器が主体であった。

試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終了した。　現地表下 0.3m まで攪乱、以下暗褐色土（0.75 ～ 0.85m）、黒褐色土（0.10 ～ 0.25m）であった。地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層相当）である。
〔遺物〕
遺物（第 12 図　図版 12）

出土状況：黒褐色土中より出土した。**遺物**：１～５が口縁部破片である。１・２は緩い波状口縁をもち沈線により曲線的なモチーフを描く。３は平縁で三叉文を描く。４は口縁部は無文で、下端に棒状工具による刺突列が巡り、以下斜位の沈線を施す。５は横ナデされる無文土器である。６～ 14 は口縁部から頸部にかけての破片である。６は三叉文が描かれる。７は沈線によりモチーフを描く。８～ 11 は頸部の区画文に沈線間に列点文を施すものを配する。９・10 は貼付文が見られる。列点文は８が右下がり、11 が左下がりで、９が横長に２列施される。12 ～ 14 は頸部の区画文に２条の沈線を配するものである。12 は貼付文が見られ、13･14 は沈線以下に半弧状の沈線が描かれる。15･16 は地文が LR の胴部破片である。いずれも安行Ⅲｄ式土器である。
時期　縄文時代晩期中葉。

11. 田端不動坂遺跡（地点：田端 1-24　第 13 図　図版 13・28-11）
〔調査期間〕　平成 29 年 10 月 11 日
〔調査面積〕　7.4 ㎡
〔調査概要〕　重機・機材搬入後、対象地内の西側に南北方向の試掘坑１（1.0 × 2.7m）、東側に T 字状の試掘坑２（東西 1.0 × 3.2m、南北 1.0 × 2.5m）の２箇所を設定し、重機により表土掘削を行った。

試掘坑 1 は設計深度の地表下 0.9m まで掘削したが、攪乱されていて、地山を検出することができなかった。試掘坑２は地表下 1.0m 程でソフトロームの地山が検出された。それより上は攪乱されていたため、自然堆積を確認することはできなかった。

遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終了した。　現地表下 0.9 ～ 1.0m まで攪乱であった。地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層相当）である。

12. 十条台遺跡群（南橋遺跡）（地点：中十条 1-3-19　第 14・15 図　図版 14・28-12）
〔調査期間〕　平成 29 年 11 月 6 日
〔調査面積〕　27.6 ㎡
〔調査概要〕　重機・機材搬入後、対象地内の北側に東西方向の試掘坑 1（1.0 × 13.6m）と南側に東西方向の試掘坑 2（1.0 × 14.0m）の 2 箇所を設定し、重機により表土掘削を行った。

試掘坑 1 の東側では地表下 0.9m 程で遺構の覆土と思われる堆積土が確認されたが、その西側は攪乱されていた。中央から西側は、地表下 0.4 ～ 0.7m 程でソフトローム層の地山が検出された。

試掘坑 2 も試掘坑 1 と同様に、東端では地表下 0.6m 程で遺構の覆土と思われる堆積土が確認できたが、その西側は大きく攪乱されていた。中央から西側では、地表下 0.3 ～ 0.7m 程でソフトローム層の地山が検出された。

遺構は対象敷地内の東端と中央部分で、南北に走行すると思われる溝跡が検出された。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、試掘調査を終了した。

東側では現地表下 0.5 ～ 0.7m まで攪乱であった。その下に 0.2 ～ 0.4m 程の近世の耕作土が堆積し、地山はロームであった。攪乱は西側に向かい薄くなる。近世の耕作土の下端は、やや西側から東側に向かい傾斜している。西側で検出されたソフトローム層は、東側では攪乱と遺構の覆土により確認することができなかった。
詳細は、本稿の「13. 十条台遺跡群（南橋遺跡）（地点：中十条 1-3-19）」を参照。

13. 十条台遺跡群（南橋遺跡）（地点：中十条 1-3-19　第 16・17 図　図版 14・15・28-13）
〔調査期間〕　平成 29 年 11 月 7 日～ 11 月 13 日
〔調査面積〕　27.6 ㎡
〔調査概要〕　試掘調査の結果から、試掘坑中央と東端で溝跡が 2 条確認されたが、西側では遺構を確認することはできなかった。そのため、試掘坑中央付近で確認された第 2 号溝跡以東を対象として確認調査を行った。

重機により表土掘削を行った。現地表下 0.3 ～ 0.9m で遺構を検出した。検出された遺構は溝跡 2 条である。遺構の図面作成後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終了した。

現地表下 0.3 ～ 0.5m まで盛土・攪乱であった。その下に近世の耕作土と思われる黒褐色および暗褐色を呈する土層が 0.2 ～ 0.4m 程堆積し、その下の地山はローム層（立川ローム第Ⅲ・Ⅳ層）であった。
〔遺構・遺物〕
【SD01】
遺構（第 16 図　図版 14）

検出位置：調査区東端に位置する。**規模：**検出長 4.25m、幅 1.82m 以上。確認した深さは 0.62m である。西側部分には深い攪乱が位置するため、西壁を明確にすることはできなかった。また、溝跡の中心部は調査区外に位置するものと思われる。**走行方位：**N － 8 ° － W。**断面形：**外側から浅い段状の掘り込みが 1 ～ 2 段認められ、その後、急角度に掘りこまれ溝底面に至ると思われる。**覆土：**近世以降の耕作土の下層と色調は近似するが、炭化粒子・ローム粒子の含み具合で分層した。自然堆積である。**所見：**第 3・11・24 地点で検出された古墳時代中期の区画溝（第 1 号溝址）と同一のものの可能性があるが、断定はできない。

遺物（第 17 図　図版 15）

出土状況：1 ～ 4 が覆土中より出土した。**遺物：**いずれも小破片である。1 は壷の口縁部で内外面ハケ調整後、ミガキを施す。2 ～ 4 は台付甕の胴部で、外面にハケ目を残す。いずれも古墳前期の所産と思われるが、小破片であるため、流れ込みの可能性が高い。

【SD02】
遺構（第 16 図　図版 14）
　検出位置：調査区西側に位置する。**規模：**検出長 3.90m、最大幅 0.60m、深さ 0.30 ～ 0.36m。両端は調査区外へと続く。**走行方位：**N － 26° － W。**断面形：**南側は平坦な底面から直線的に斜めに立ち上がり、北側ではやや丸みある底面から僅かに内湾気味に立ち上がる。底面の高さは一定で傾斜は見られない。**覆土**：自然堆積である。**所見：**覆土は SD01 に近いことから、SD01 と同様に古墳時代中期の区画溝に関連する溝跡の可能性が考えられる。
遺物　図示できる遺物は出土していない。
時期　不明。
【調査区出土遺物】（第 17 図　図版 15）
　出土状況： 5 ～ 10 は表土掘削中及び遺構確認中に出土した遺物である。**遺物：** 5 は壷の口縁部で、折り返し部下端に木口状工具によるキザミを施す。 6 は壷の胴部で、外面に細かな縦ミガキが見られ、赤彩される。 7 ～ 10 は台付甕である。 7 は台部、 8 ・ 9 が頸部、10 が胴部でいずれもハケ目が見られる。いずれも古墳時代前期の所産である。

14．中里峡上遺跡（地点：中里 3-16-24　第 18 図　図版 16・27-14）
〔調査期間〕　平成 29 年 12 月 11 日
〔調査面積〕　6.3 ㎡
〔調査概要〕　前回の北側隣地の確認調査の成果をもとに、対象地内北側に東西方向の試掘坑（1.0 × 5.3m）を 1 箇所設定し、人力により表土掘削を行った。
　建築計画の設計深度である地表下 0.85m 程まで掘削した結果、試掘坑東側で住居跡の覆土と思われる土層を確認した。西側は攪乱が深く、一部硬化した部分が遺存していた。硬化面は住居床面の一部である可能性がある。試掘坑の記録後、東側で検出された遺構の全形を確認するため、引き続き確認調査に移行した。
　現地表下 0.8 ～ 0.9m まで攪乱であった。
　詳細は、本稿の「15．中里峡上遺跡（地点：中里 3-16-24）」を参照。

15．中里峡上遺跡（地点：中里 3-16-24　第 18・19 図　図版 16・17・27-15）
〔調査期間〕　平成 29 年 12 月 12 日～平成 29 年 12 月 13 日
〔調査面積〕　9.8 ㎡（確認）
〔調査概要〕　試掘調査の成果をもとに、遺構（SI01）の全形を確認するために、南側を拡張し調査を行った。
　建築計画の設計深度である地表下 0.85m 程まで掘削した結果、細長い攪乱の南側でソフトロームの地山が確認された。このことから、竪穴住居跡と思われる遺構は攪乱より南側に至らないことが確認できた。これとは別に竪穴住居跡と同様の覆土をもつピットを確認した。
　遺構の記録後、人力で埋め戻しを行い、機材を搬出し調査を終了した。
　現地表下 0.8 ～ 0.9m まで攪乱であった。地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層）である。
〔遺構・遺物〕
【SI01】
遺構（第 18 図　図版 16）
　平面形：－。**規模**：主軸検出長 3.52m、主軸直交検出長 1.32m。**主軸方位**：N － 68° － W。**覆土**：黒褐色を基本とするが、西側がやや暗褐色を呈し色調の違いが見られた。**所見：**西側の攪乱との境では、焼土や粘土が広範囲に分布していた。また一部硬化した部分も見られた。詳細は不明であるが、これらのこ

とから、住居跡の重複あるいは、カマドの一部あるいはカマドの壊されたものと考えられる。
遺物　土師器・須恵器・弥生土器が出土した。
時期　平安時代。
【Pit01】
遺構（第 18 図　図版 16）
　平面形：楕円形。**規模**：主軸検出長 0.48m、主軸直交検出長 0.38m 以上。**主軸方位**：N － 87° － W。**覆土**：SI01 と同様で黒褐色を呈する。**所見：**遺物は認められないが、SI01 と覆土が近似することから同一時期の所産と思われる。

16. 西ヶ原遺跡群（地点：上中里 1-35　第 20 図　図版 18・28-16）
〔調査期間〕　平成 29 年 12 月 25 日
〔調査面積〕　18.8 ㎡
〔調査概要〕　重機・機材搬入後、対象地内の南側に東西方向の試掘坑 1 （1.0 × 8.5m）、北側に変形 T 字状の試掘坑 2 （東西 1.0 × 8.0m、南北 1.0 × 2.3m）の 2 箇所を設定し、重機により表土掘削を行った。
　試掘坑 1 では地表下 0.6 ～ 0.7m 程でソフトロームの地山が検出された。試掘坑中央付近から東側にかけては、遺構の覆土と思われる土層が確認できた。試掘坑 2 も試掘坑 1 と同様で、地表下 0.6 ～ 0.7m 程でソフトロームの地山が検出された。試掘坑の南端で遺構の一部を確認することができた。
　試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、重機・機材を搬出し調査を終了した。
　現地表下 0.6 ～ 0.7m まで攪乱であった。地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層相当）である。

17. 田端不動坂遺跡（地点：田端 1-24　第 21 図　図版 19・28-17）
〔調査期間〕　平成 30 年 1 月 11 日
〔調査面積〕　2.3 ㎡
〔調査概要〕　重機・機材搬入後、始めに対象地内の南西側に南北方向の試掘坑（1.0 × 2.5m）を 1 箇所設定し、重機により表土掘削を行った。
　設計深度の地表下 0.7m まで掘削した。部分的に地山のソフトロームが検出されたが、多くが攪乱されていた。
　遺構は検出できなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を搬出し調査を終了した。
　現地表下 0.7m まで攪乱であった。地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層相当）である。

18. 十条台遺跡群（地点：中十条 1-26-9　第 22 図　図版 20・28-18）
〔調査期間〕　平成 30 年 1 月 24 日
〔調査面積〕　9.0 ㎡
〔調査概要〕　重機・機材搬入後、始めに対象地内の東側に南北方向の試掘坑（1.0 × 9.0m）を 1 箇所設定し、重機により表土掘削を行った。
　地表下 0.9m まで掘削し、ソフトロームの地山を検出した。地山は多くの部分で攪乱を受けていた。地山より上位は全体的には攪乱され、自然堆積を確認することはできなかった。
　遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機・機材を搬出し調査を終了した。
　現地表下 0.9m まで攪乱であった。地山はハードローム（立川ローム第Ⅳ層相当）である。

19. 西ヶ原遺跡群（地点：西ヶ原 3-7-15　第 23 図　図版 21・28-19）
〔調査期間〕　平成 30 年 1 月 29 日
〔調査面積〕　7.0 ㎡
〔調査概要〕　重機・機材搬入後、始めに対象地内の中央部に東西方向の試掘坑 1（1.0 × 7.0m）を設定した。この試掘坑 1 の西端部から 1.0m あけ、試掘坑 2（1.0 × 1.0m）の 2 箇所設定し、重機により表土掘削を行った。

試掘坑 1 の東端部では地表下 1.2m 程まで、西側では 0.6m 程まで掘削し、地山を検出した。地山より上位は全体的に攪乱され、自然堆積を確認することはできなかった。地山は、試掘坑 1 の中央やや西側から東端部にかけては立川ローム第Ⅹ層に、西側は第Ⅸ層に相当するものと思わる。斜面に位置するため不明確であるが、上層のロームの流出あるいは、大規模な地形の改変がなされたものと思われる。試掘坑 2 も同様で 0.9m 程で黒色帯（第Ⅸ層相当）が検出されたが、それより上位は攪乱されていた。

遺構は検出できなかった。試掘坑の記録後、重機・機材を搬出し調査を終了した。

現地表下 0.6 ～ 1.2m まで攪乱であった。地山はローム（立川ローム第Ⅸ・Ⅹ層相当）である。

20. 宮堀北遺跡（地点：志茂 3-8　第 24 図　図版 22・28-20）
〔調査期間〕　平成 30 年 2 月 9 日
〔調査面積〕　5.0 ㎡
〔調査概要〕　重機・機材搬入後、始めに対象地内の東側に南北方向の試掘坑（1.0 × 5.0m）を 1 箇所設定し、重機により表土掘削を行った。

地表下 0.4m まで掘削し、青灰色粘土の地山を検出した。低地であるため、南側をさらに地表下 0.7m 程掘削したが、遺構・遺物は確認できなかった。地山より上位は全体的に攪乱され、自然堆積を確認することはできなかった。

試掘坑の記録後、重機・機材を搬出し調査を終了した。

現地表下 0.4m まで攪乱であった。地山は青灰色粘土である。

21. 中里峡上遺跡（地点：中里 3-11-13　第 25 図　図版 23・24・28-21）
〔調査期間〕　平成 30 年 2 月 14 日～ 2 月 15 日
〔調査面積〕　43.7 ㎡
〔調査概要〕　重機・機材搬入後、始めに対象地内の北側に東西方向の試掘坑 1（1.0 × 14.0m）を設定し、重機により表土掘削を行った。東側部分の一部を除き、地表下 2.0m 以上が攪乱されていた。次に、対象地内の南側に東西方向の試掘坑 2（1.0 × 13.0m）を設定し、重機により表土掘削を行った。多くは攪乱されていたが、試掘坑 1 に比べその深度は浅く、範囲も狭かった。部分的に地山のソフトロームが地表下 0.5 ～ 0.6m 程の深さで検出され、一部遺構の覆土と思われるものも検出された。

その後、試掘坑 1 ・2 の成果をもとに攪乱の範囲と遺構覆土の範囲を知るために、これらの試掘坑と直交するように試掘坑 3（1.0 × 11.4m）・試掘坑 4（1.0 × 6.0m）を設定し調査を行った。

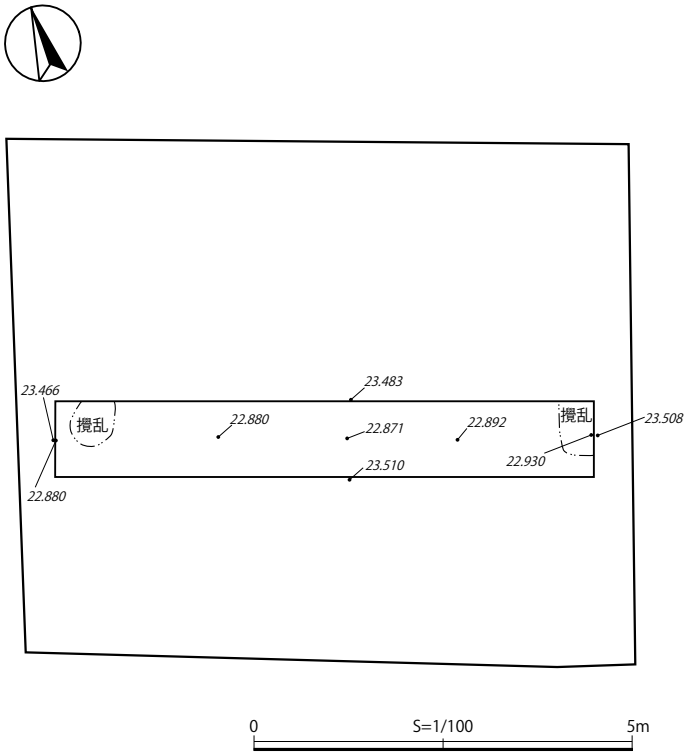
結果、対象地内の東側から南側にかけて、部分的に攪乱があるが、複数の遺構が認められた。

各試掘坑の記録写真・図面を作成し、埋め戻し後、重機・機材を搬出し調査を終了した。

現地表下 0.5 ～ 0.6m まで攪乱であった。地山はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層相当）である。

遺物　古墳時代後期末から奈良時代にかけての須恵器・土師器・縄文土器（前期）が出土した。

時期　古墳時代後期末～奈良時代。

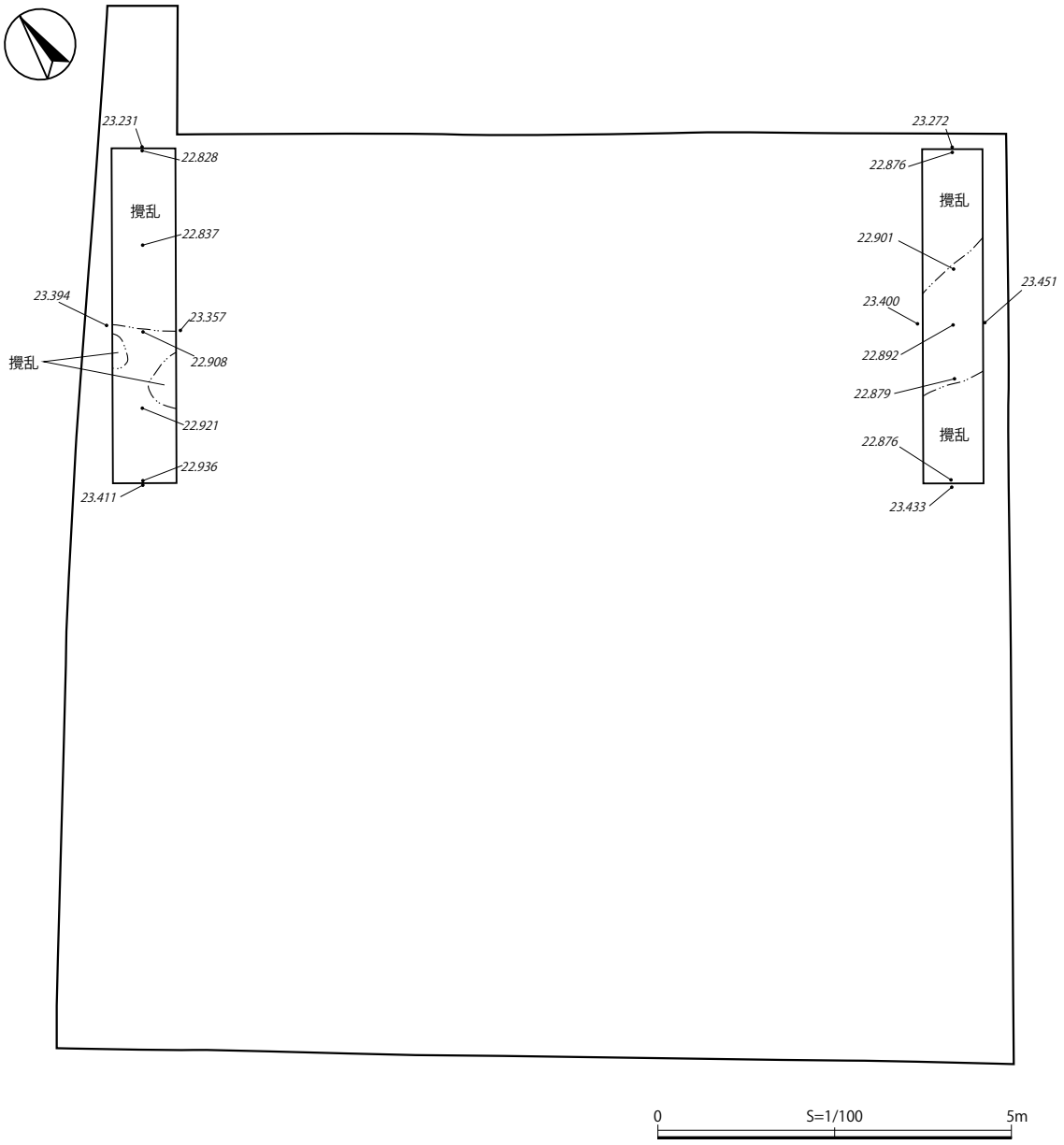


第１図　上中里 1-33 地点　調査平面図

試掘坑全景（西側から）

土層堆積状況（北側から）

図版１　上中里 1-33 地点

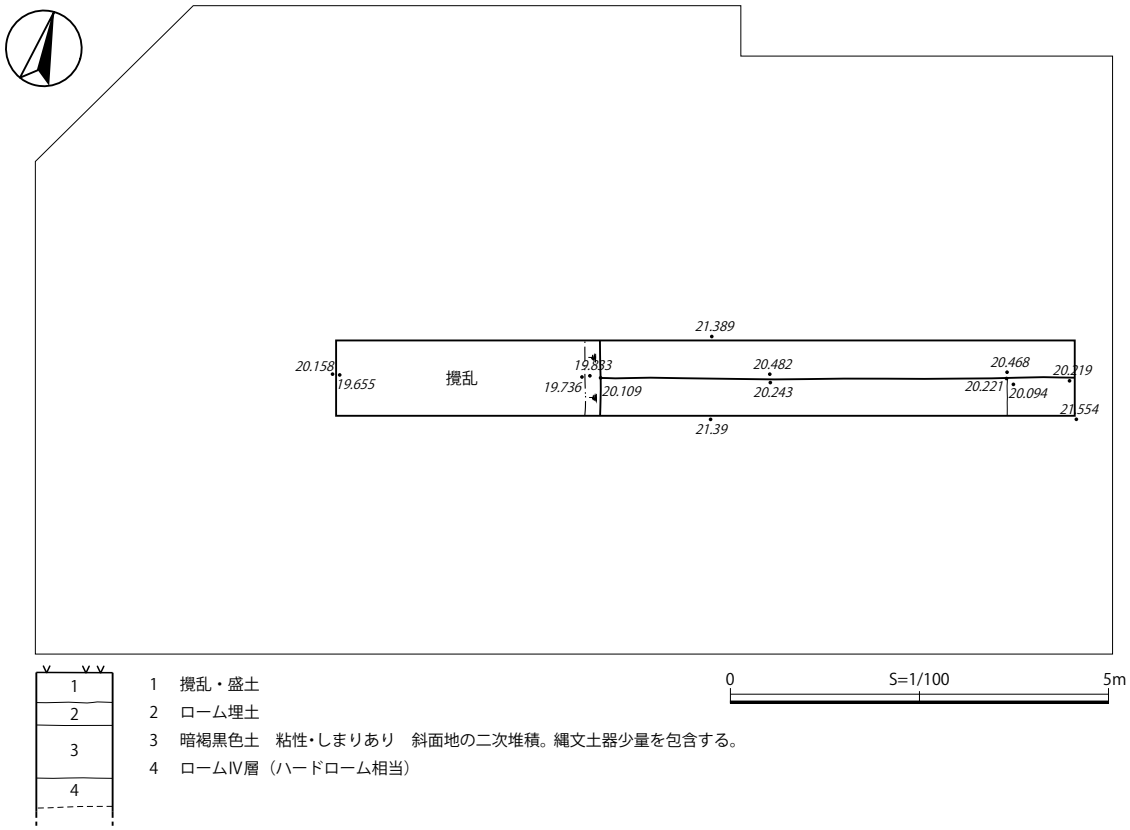


第２図　田端 6-3-20 地点　調査平面図

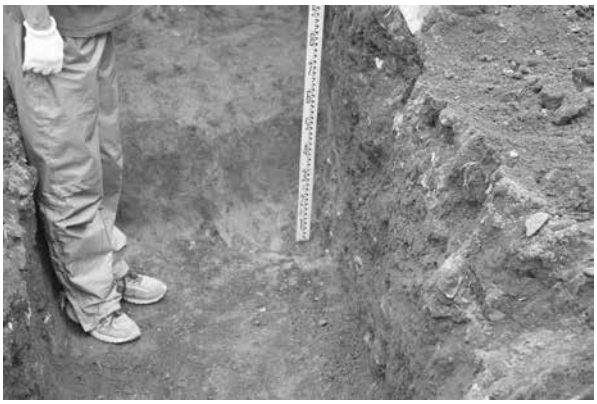
東試掘坑全景（北東側から）

西試掘坑全景（北東側から）

図版２　田端 6-3-20 地点



第３図　西が丘 1-28-7 地点　調査平面図

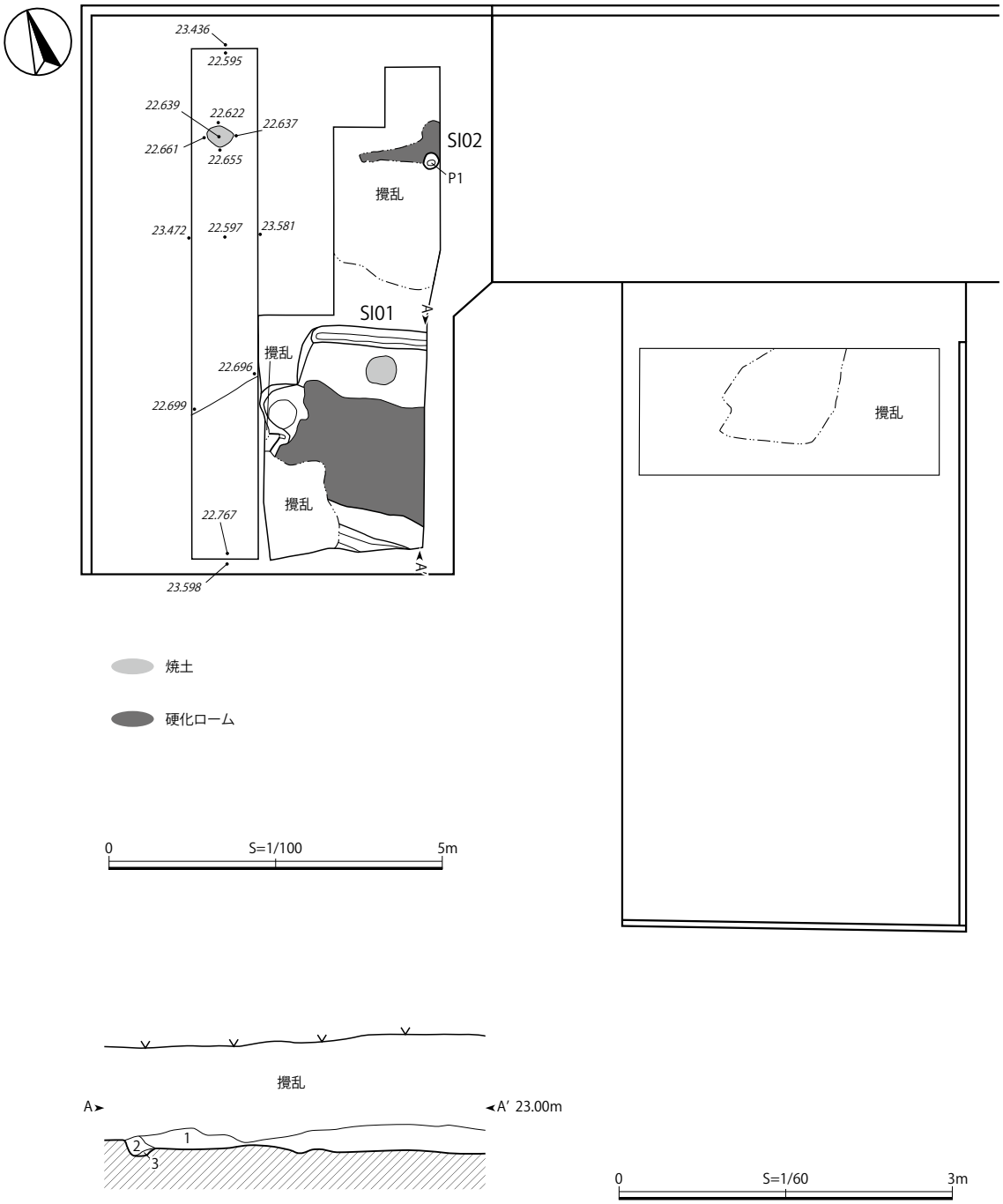


ローム検出面（南側から）

試掘坑全景（北側から）

試掘坑全景（南側から）

図版 3　西が丘 1-28-7 地点



SI01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色土	なし	なし	ローム粒子を少量含む。
2	暗褐色土	なし	なし	ロームブロック（φ5mm）を少量含む。
3	暗黄褐色土	なし	なし	ローム粒子を多量に含む。壁溝覆土。

第４図　中里 3-16-24 地点　調査平面図

試掘坑全景（南側から）

SI01 全景（東側から）

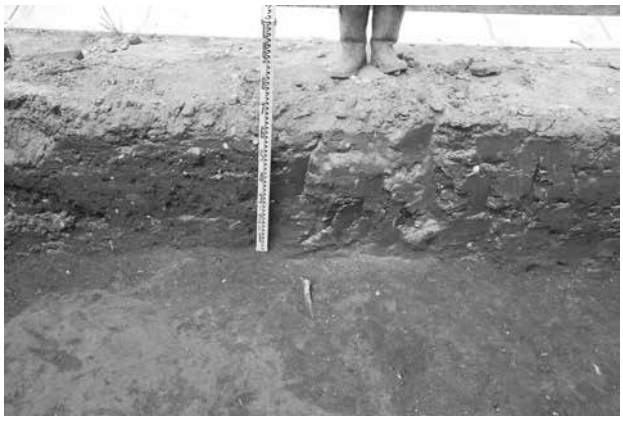
SI01 カマド（東側から）

調査区 1 ローム検出面（東側から）

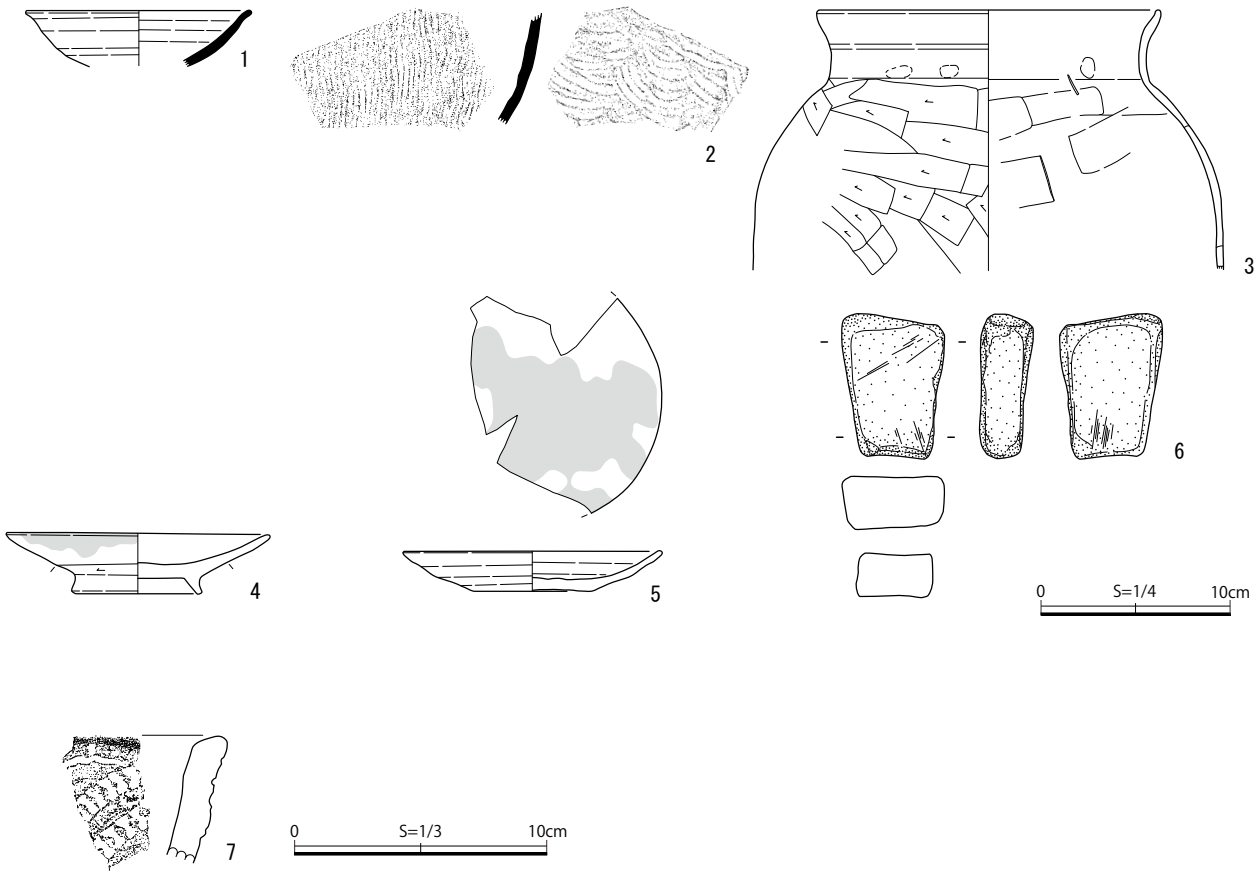
SI02 全景（東側から）

SI02 ピット 1（西側から）

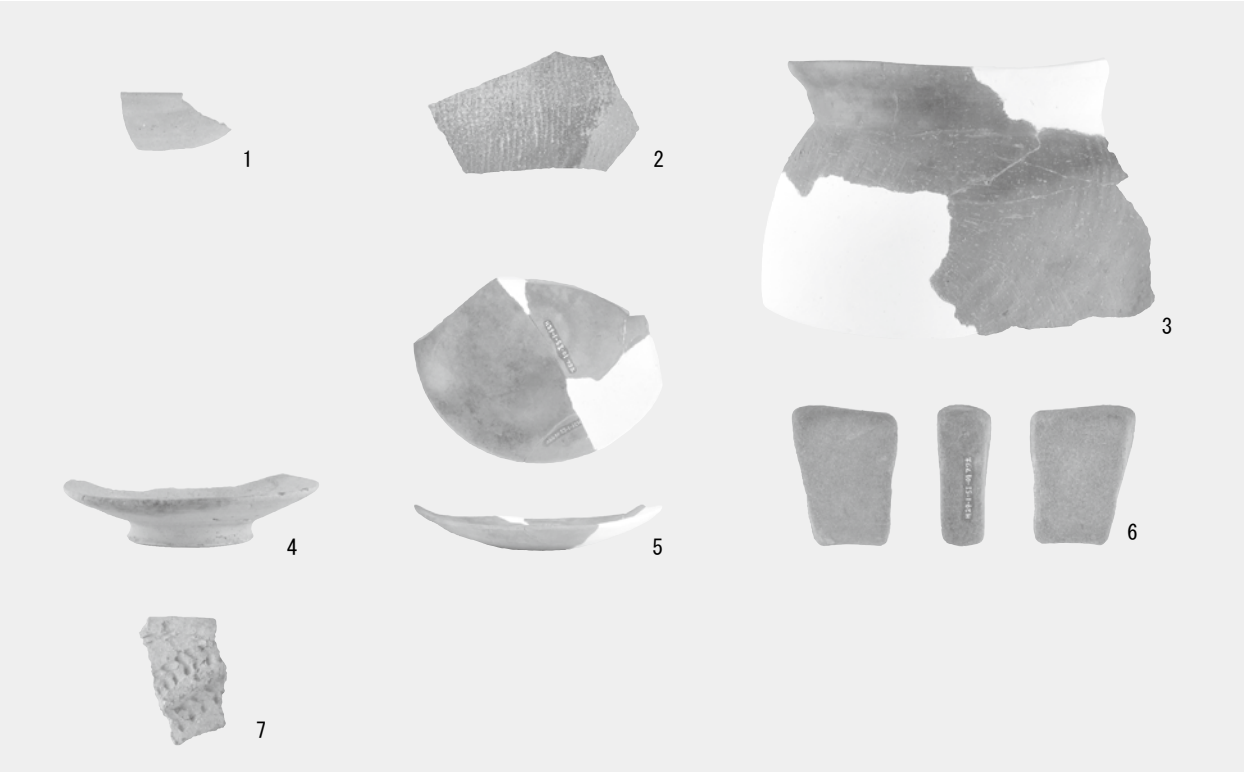
試掘坑全景（西側から）


調査区 2 ローム検出面（南側から）

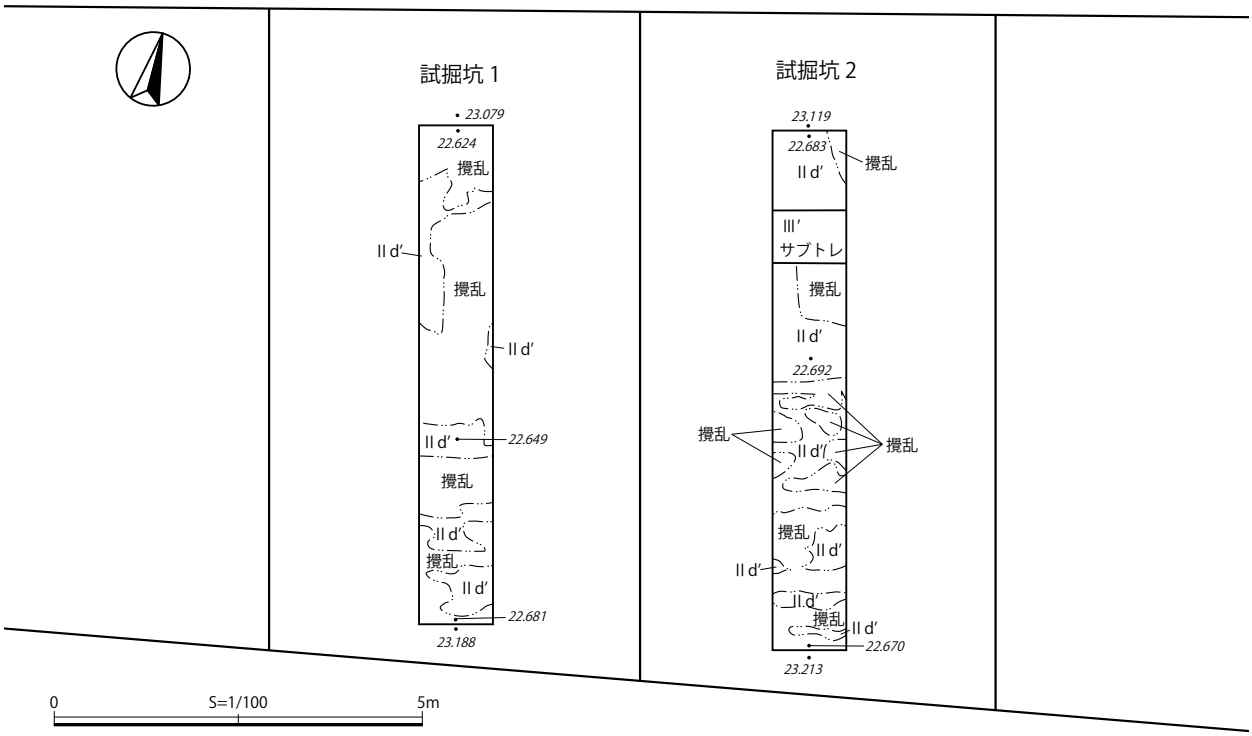
図版 4　中里 3-16-24 地点



第 5 図　中里 3-16-24 地点　出土遺物実測図



図版 5　中里 3-16-24 地点　出土遺物



試掘坑１・２

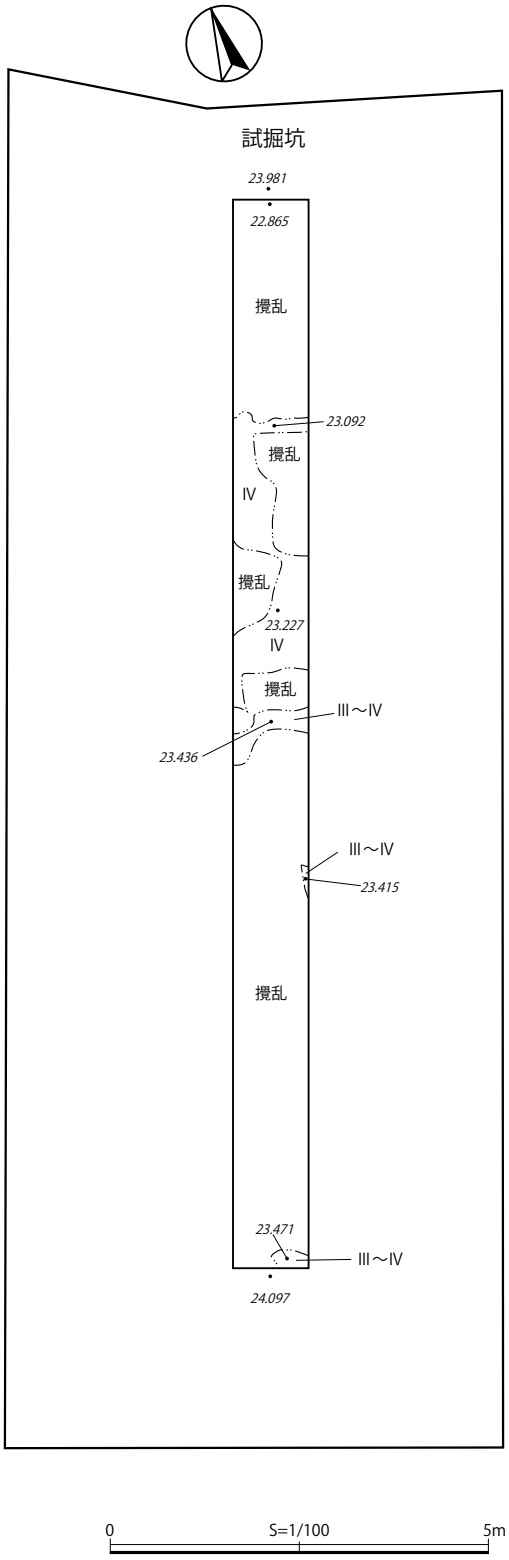
	土色	締り	粘性	混入物・備考
Ⅱd′	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	強い	やや強い	白色粒子を微量含む。ローム漸移層に相当すると思われるが、漸移層に比べ、締りが強く、色調が暗い。
Ⅲ′	にぶい橙色（7.5YR6/4）	強い	やや強い	赤・黒色スコリア（φ1mm）を微量含む。立川ロームⅢ層に相当すると思われるが、Ⅲ層に比べ締りが強い。

第６図　中十条 4-6 地点　調査平面図

試掘坑１（南から）

試掘坑２（南から）

図版６　中十条 4-6 地点

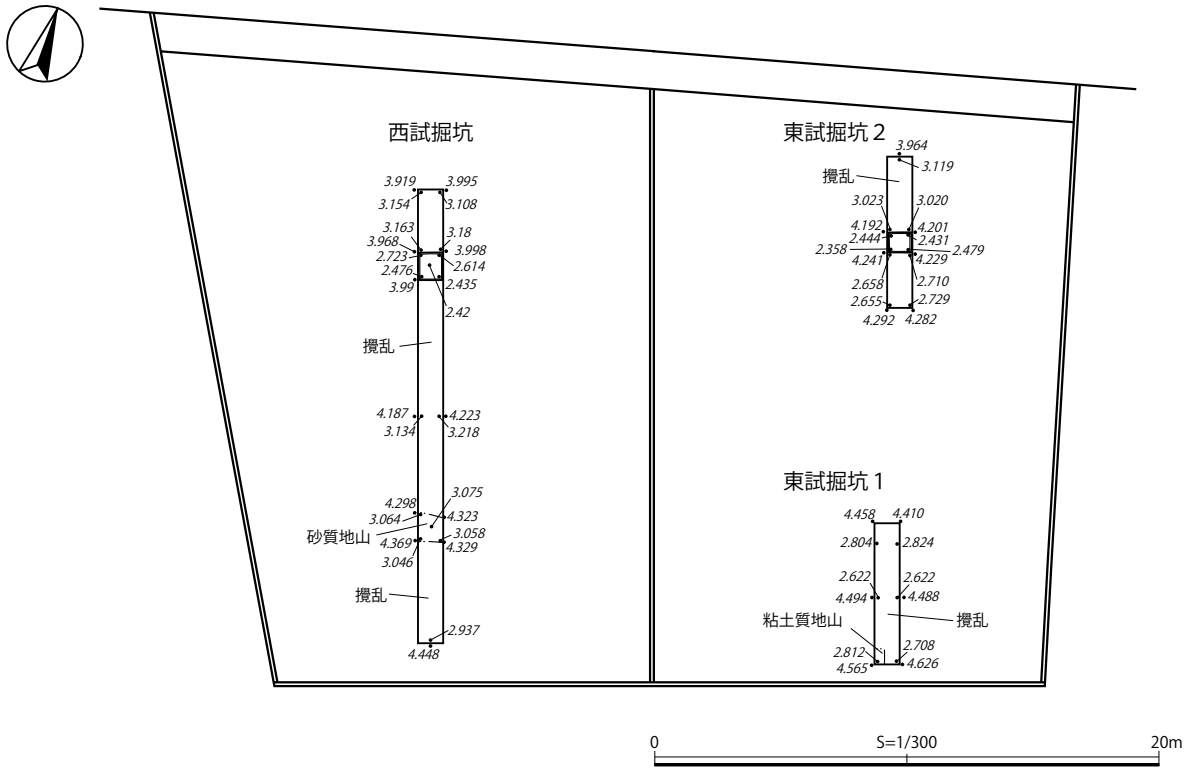


第７図　上中里 1-11-17 地点　調査平面図

試掘坑全景（南側から）

試掘坑土層堆積状況（東側から）

図版７　上中里 1-11-17



第８図　赤羽北 2-2 地点　調査平面図

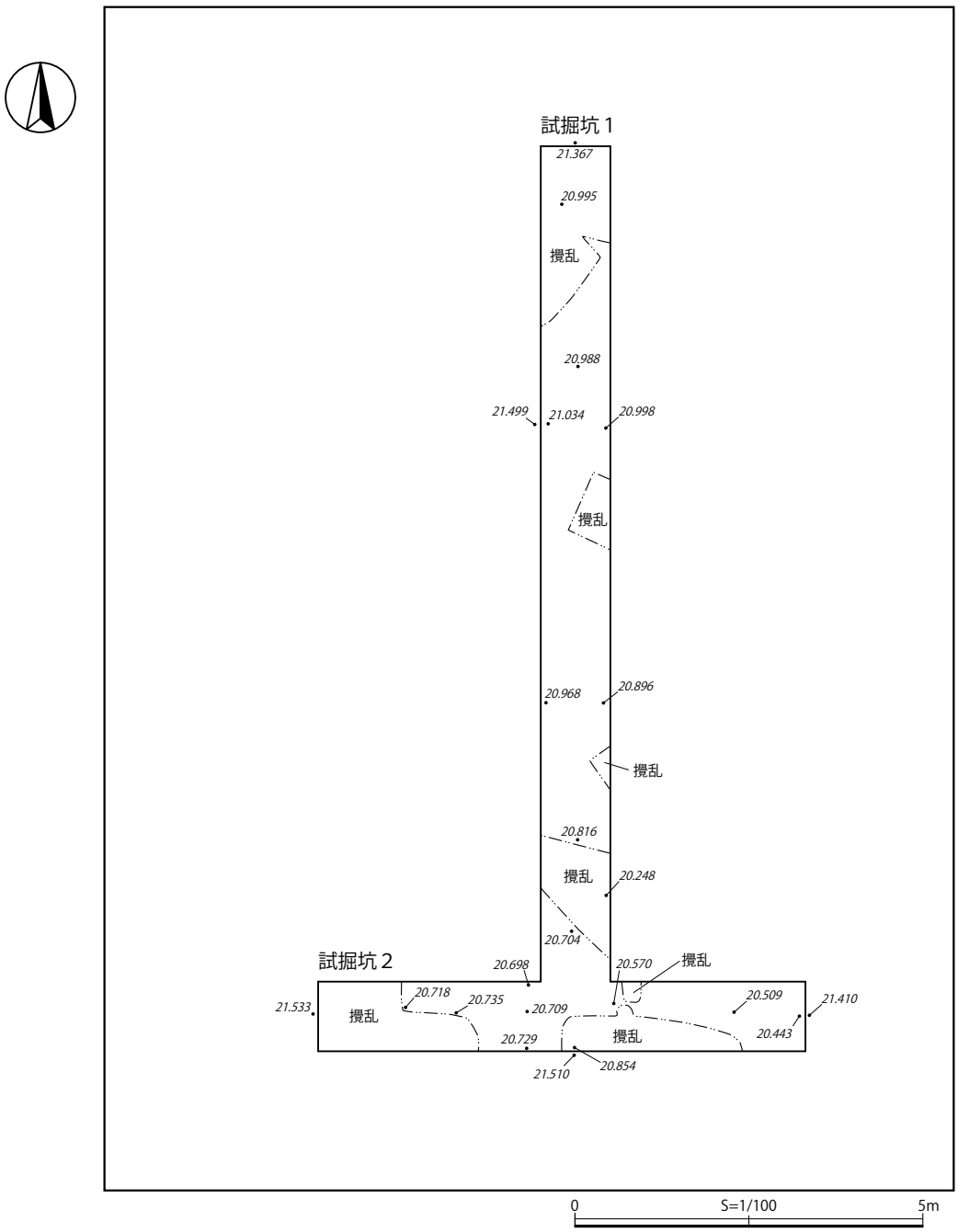
西試掘坑全景（北側から）

西試掘坑土層堆積状況（北側から）

東試掘坑１全景（北側から）

東試掘坑２全景（南側から）

図版８　赤羽北 2-2 地点

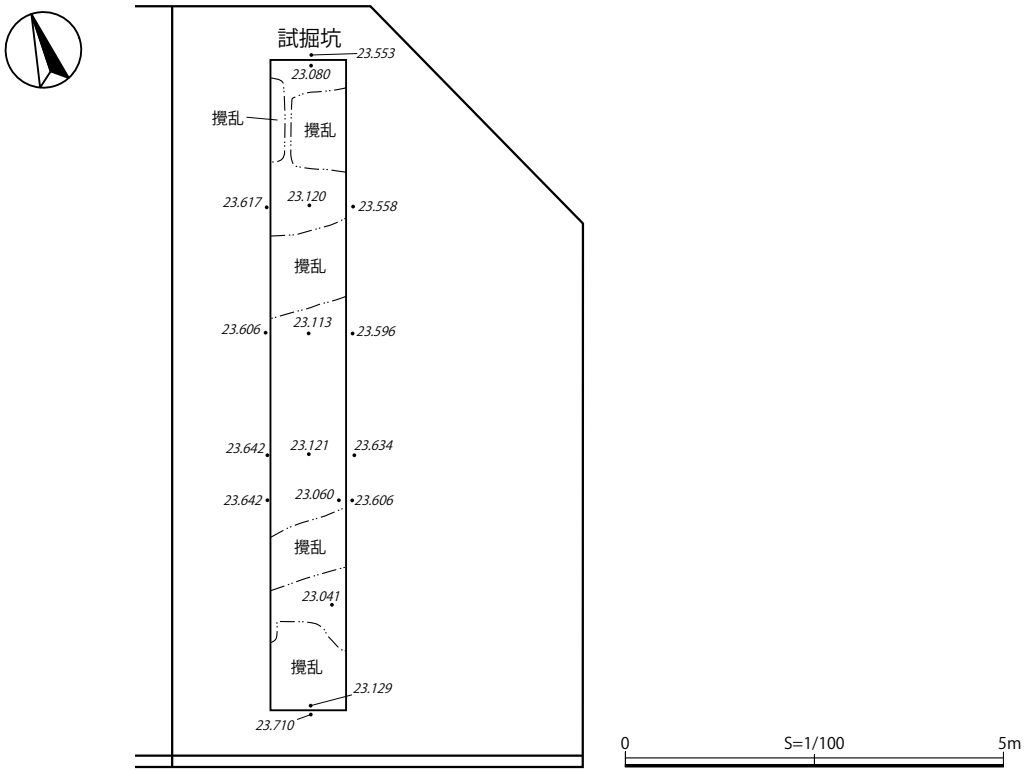


第９図　滝野川 4-27-1 地点　調査平面図

試掘坑１全景（北側から）

試掘坑２全景（西側から）

図版９　滝野川 4-27-1 地点



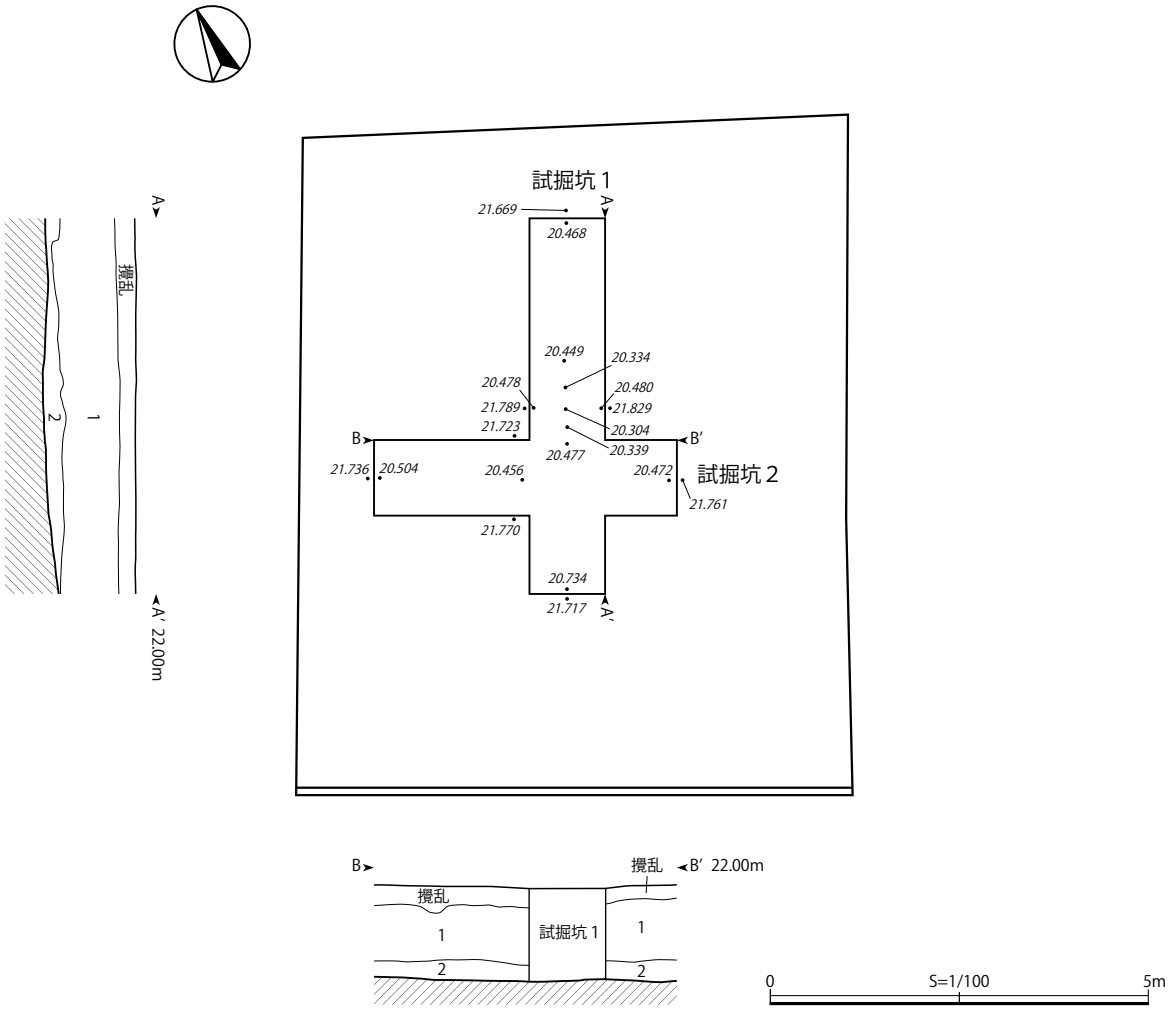
第 10 図　中里 3-16-24 地点　調査平面図

試掘坑全景（北側から）

土層堆積状況（西側から）

調査終了後状況（北側から）

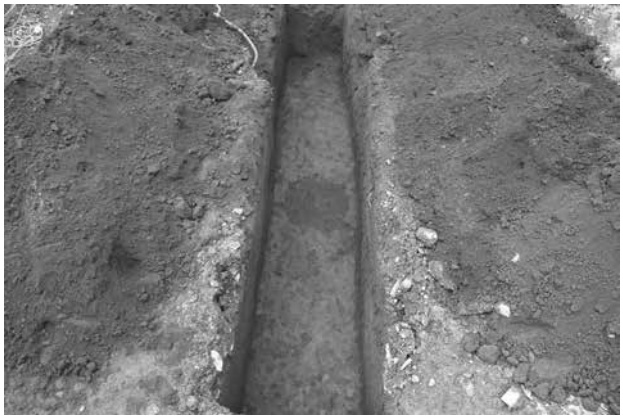
図版 10　中里 3-16-24 地点



試掘坑１・２

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色土	なし	なし	焼土粒子、ローム粒子を少量含む。　※非常にやわらかく均一性が高い遺物小破片を少量含む。
2	黒褐色土	なし	なし	炭化粒子・焼土粒子を少量含む。ローム粒子を多量に含む。

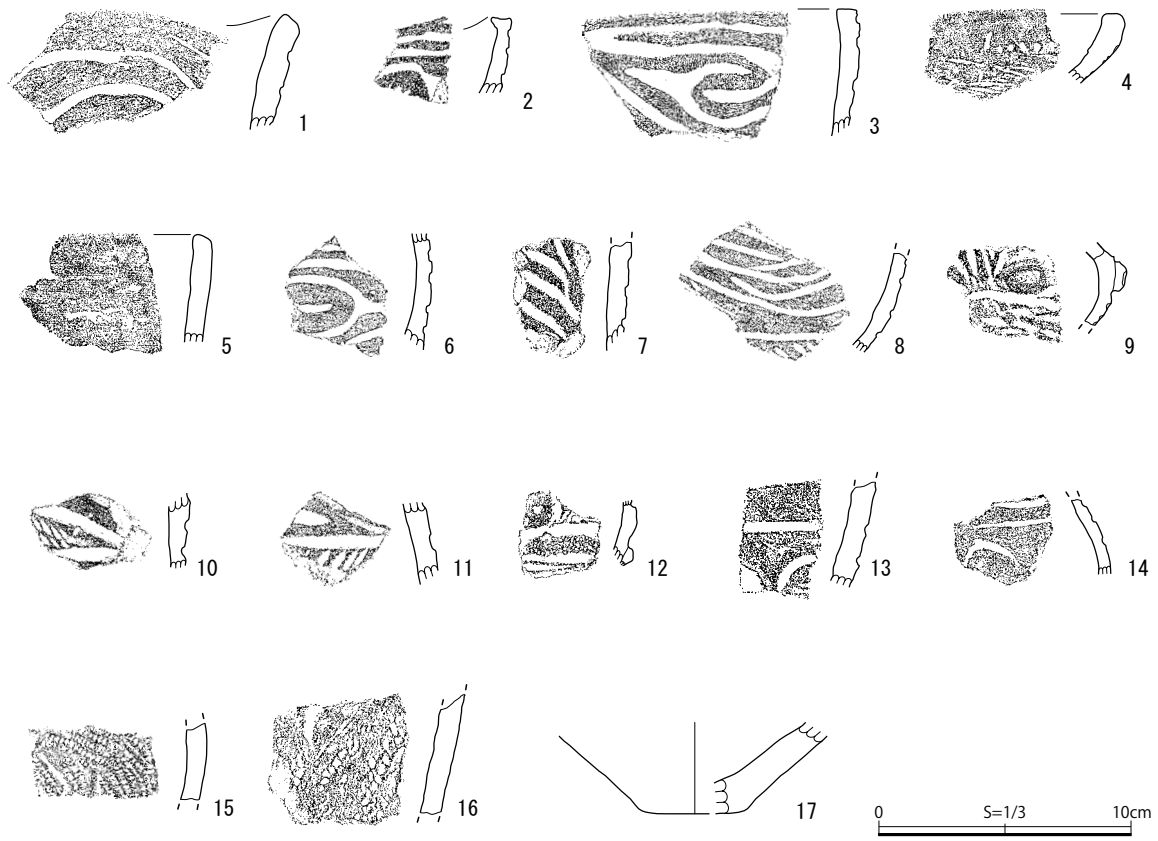
第 11 図　西ヶ原 3-6-20　調査平面図



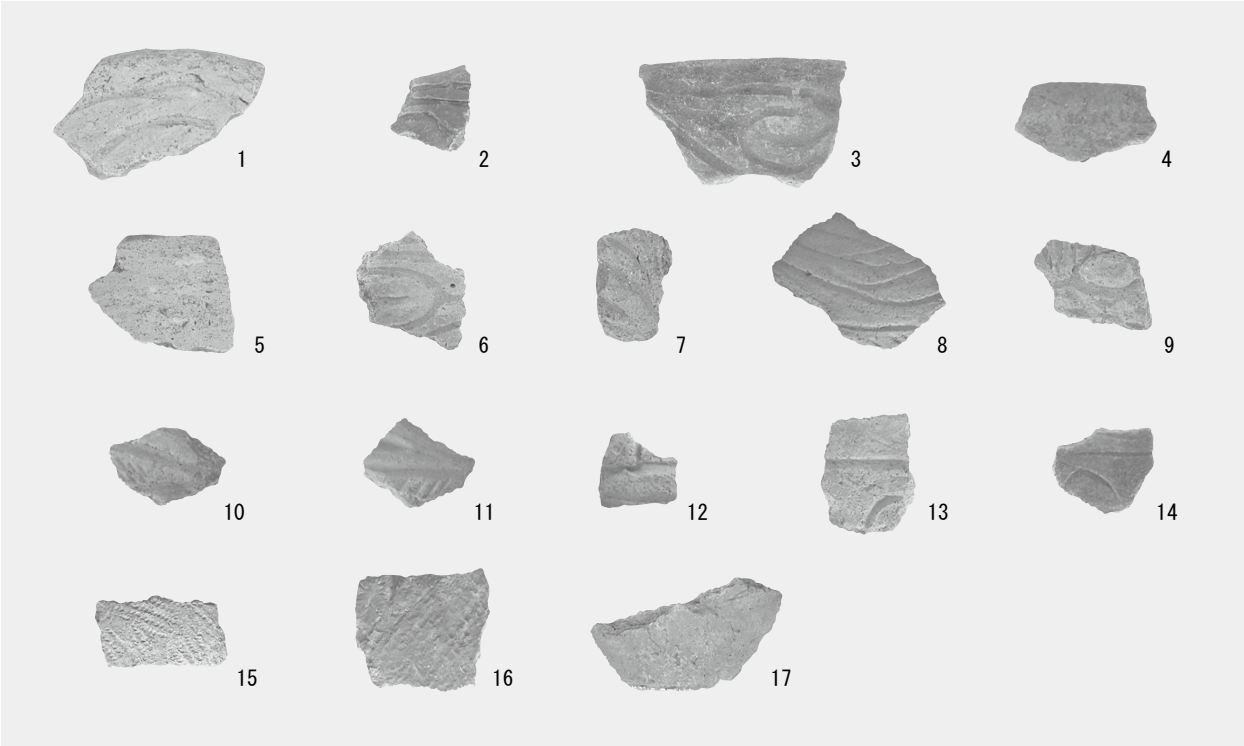
試掘坑１全景（北側から）

試掘坑２全景（西側から）

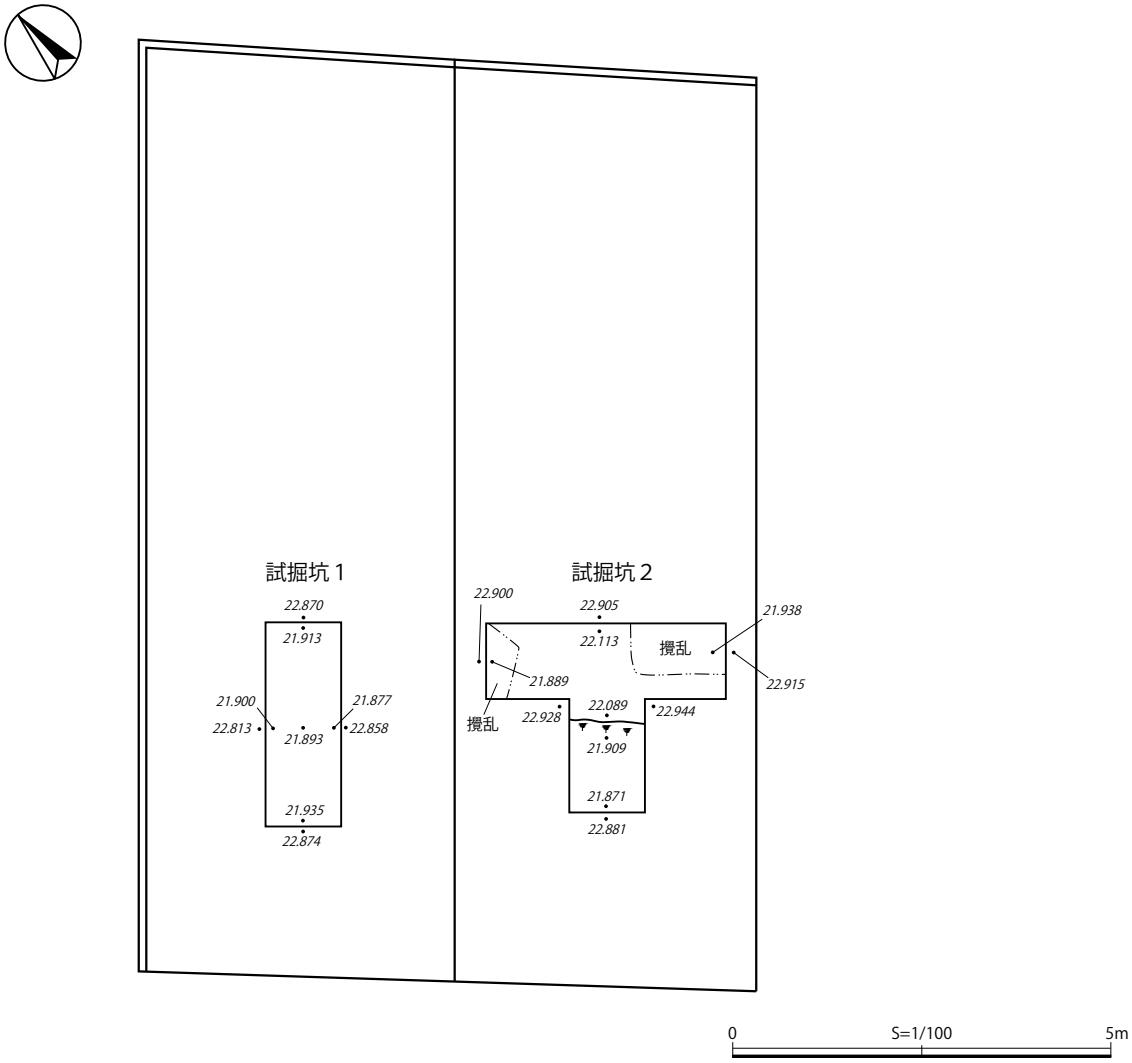
図版 11　西ヶ原 3-6-20 地点



第 12 図　西ヶ原 3-6-20 地点　出土遺物実測図



図版 12　西ヶ原 3-6-20 地点　出土遺物

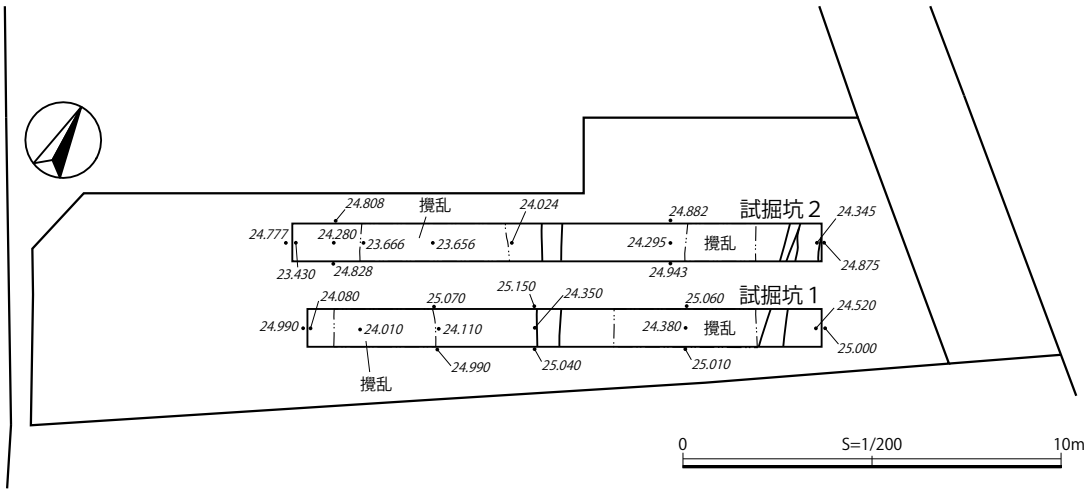


第 13 図　田端 1-24　調査平面図

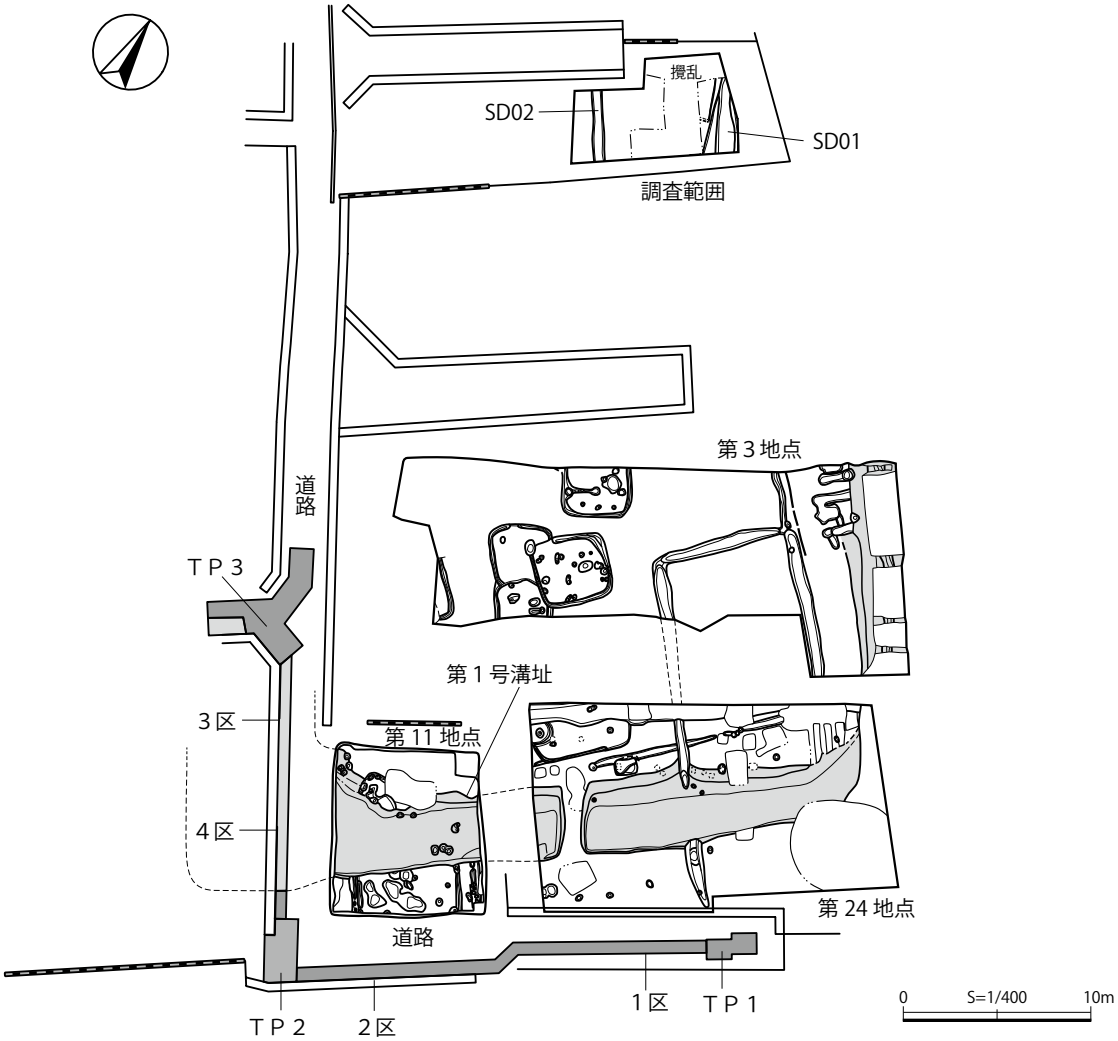
試掘坑 1 全景（北東側から）

試掘坑 2 全景（東側から）

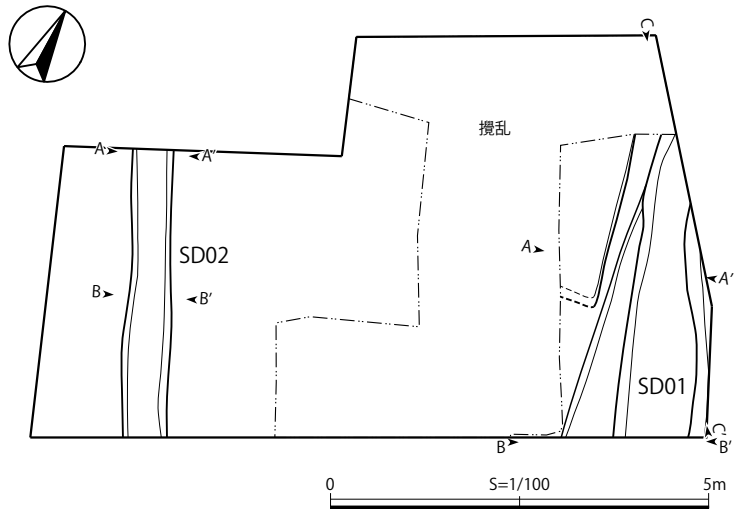
図版 13　田端 1-24 地点



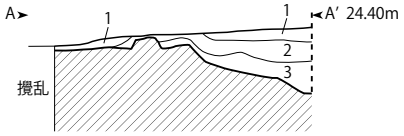
第 14 図　中十条 1-3-19 地点　調査平面図



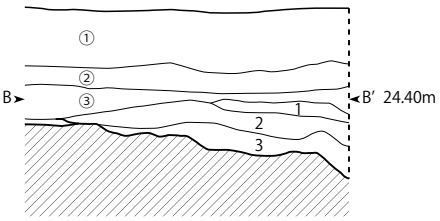
第 15 図　南橋遺跡区画溝



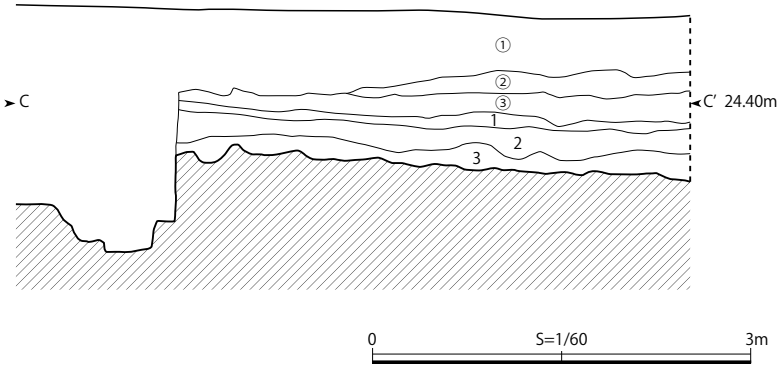
SD01A セクション



SD01B（調査区南壁）セクション



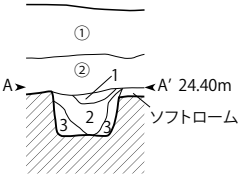
SD01C（調査区東壁）セクション



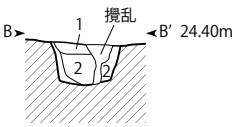
SD01

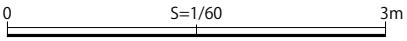
	土色	締り	粘性	混入物・備考
①	撹乱層			
②	黒褐色土（10YR2/3）	ややあり	ややあり	ローム粒子を微量含む。
③	暗褐色土（10YR3/4）	ややあり	ややあり	ローム粒子を少量含む。
1	暗褐色土（10YR3/3）	なし	なし	炭化粒子・ローム粒子を少量含む。
2	暗褐色土（10YR3/3）	なし	なし	炭化粒子・ローム粒子を少量、ロームブロック（φ 5 mm 以下）を含む。
3	暗褐色土（10YR3/3）	ややあり	なし	ロームブロック（φ 5 ～ 30mm）を多量に含む。

SD02A セクション



SD02B セクション





SD02

	土色	締り	粘性	混入物・備考
①	撹乱層			
②	黒褐色土（10YR2/3）	ややあり	ややあり	ローム粒子を微量含む。
1	黒褐色土（10YR2/3）	ややあり	ややあり	ローム粒子を少量含む。
2	暗褐色土（10YR3/4）	なし	ややあり	ローム粒子・黒色土粒子を少量含む。
3	褐色土（10YR4/4）	ややあり	ややあり	ローム粒子・ロームブロック（φ10 ～ 30mm）を少量含む。

第 16 図　中十条 1-3-19 地点　調査平・断面図

試掘坑１全景（西側から）

試掘坑２全景（西側から）

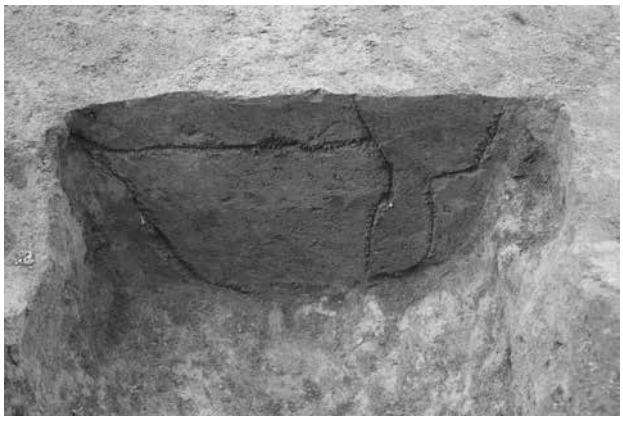
調査区全景（西側から）

SD01 全景（南側から）

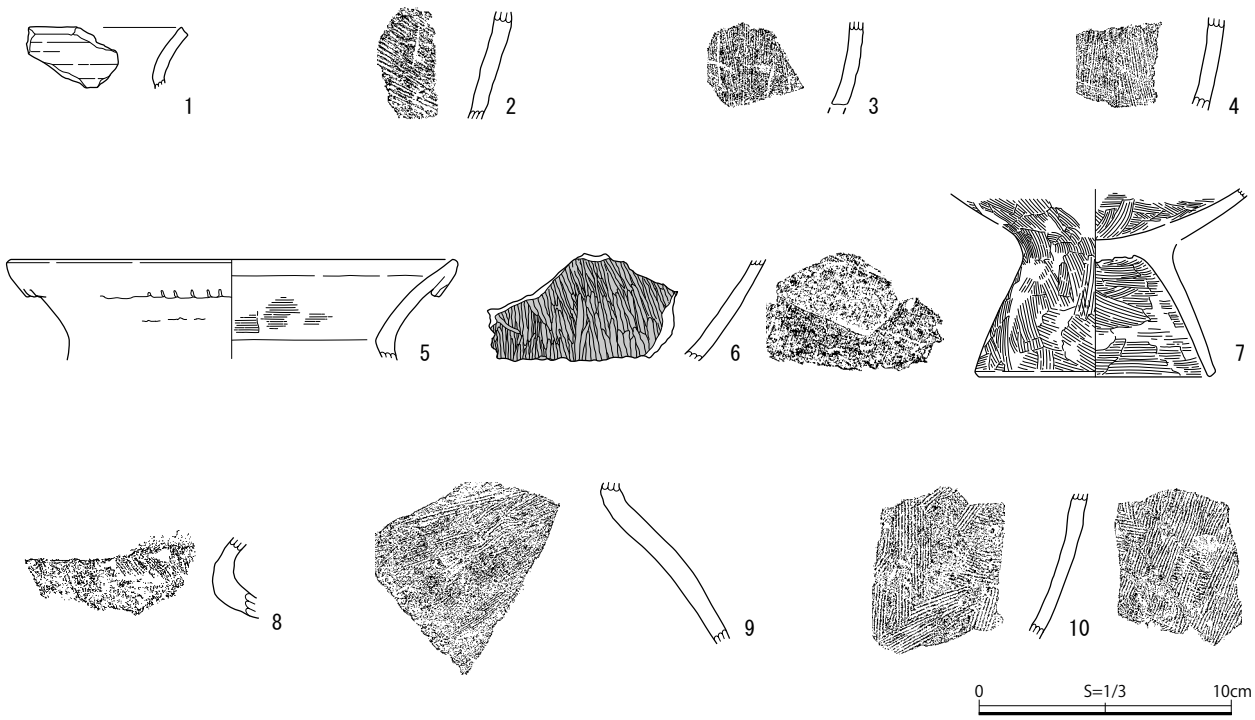
SD01 調査区東壁・１（西側から）

SD01 調査区東壁・2（西側から）

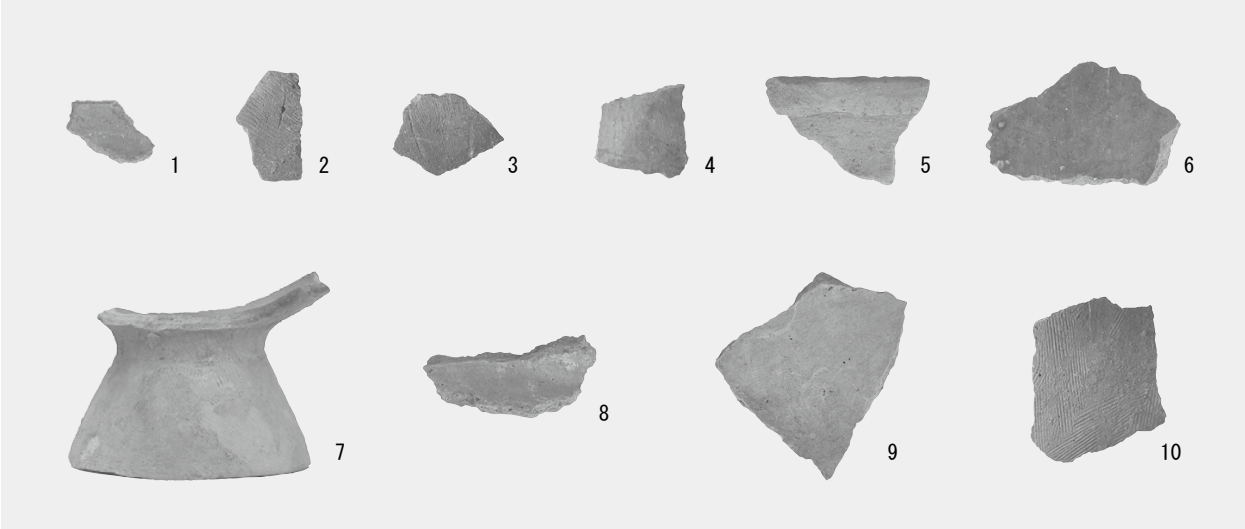
SD02 全景（北側から）


SD02B-B′（南側から）

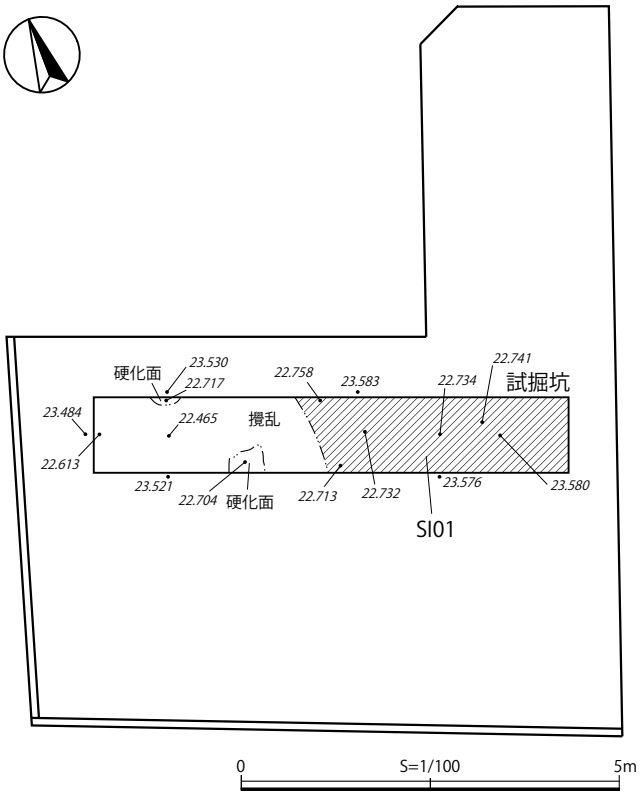
図版 14　中十条 1-3-19 地点

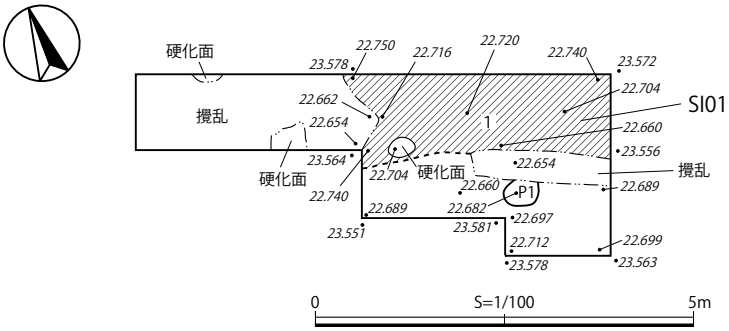


第 17 図　中十条 1-3-19 地点　出土遺物実測図



図版 15　中十条 1-3-19 地点　出土遺物





SI01

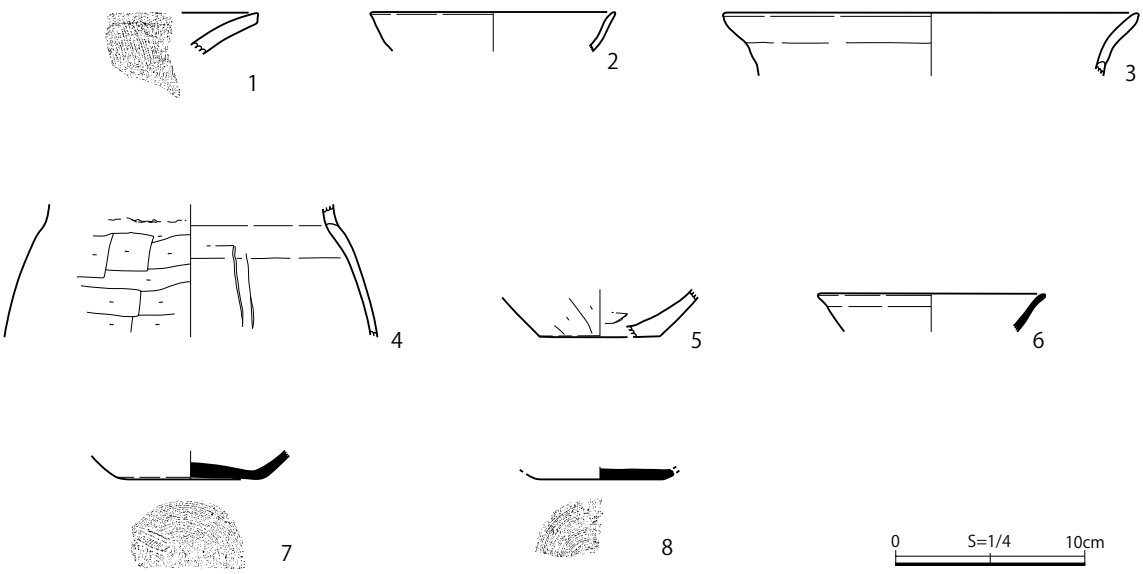
	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土（7.5YR2/2）	ややあり	ややあり	ローム粒子・ロームブロック（φ0.5mm 前後）を多量に含む。炭化粒子を少量含む。

第 18 図　中里 3-16-24 地点　調査平面図

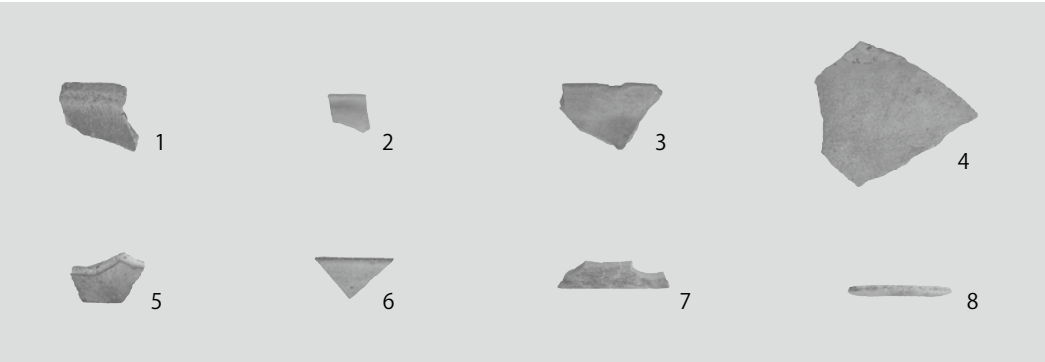
試掘坑全景（東側から）

調査区全景（東側から）

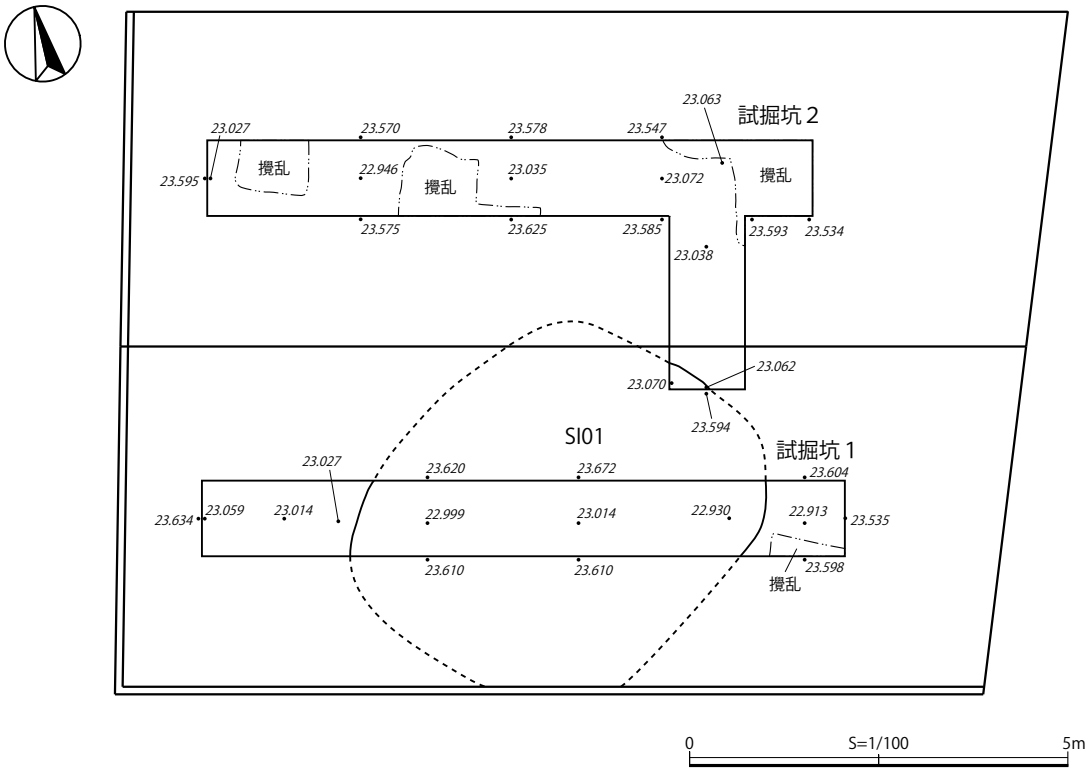
図版 16　中里 3-16-24 地点



第 19 図　中里 3-16-24 地点　出土遺物実測図



図版 17　中里 3-16-24 地点　出土遺物

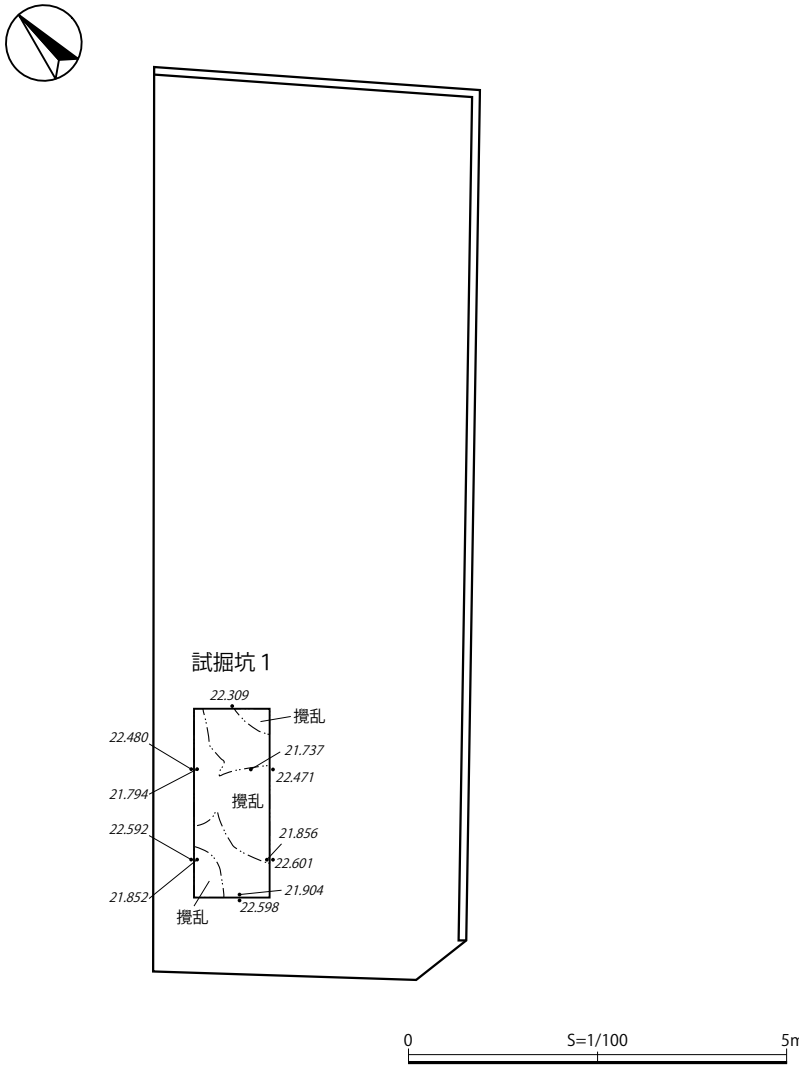


第 20 図　上中里 1-35 地点　調査平面図

試掘坑 1 全景（東側から）

試掘坑 2 全景（東側から）

図版 18　上中里 1-35 地点

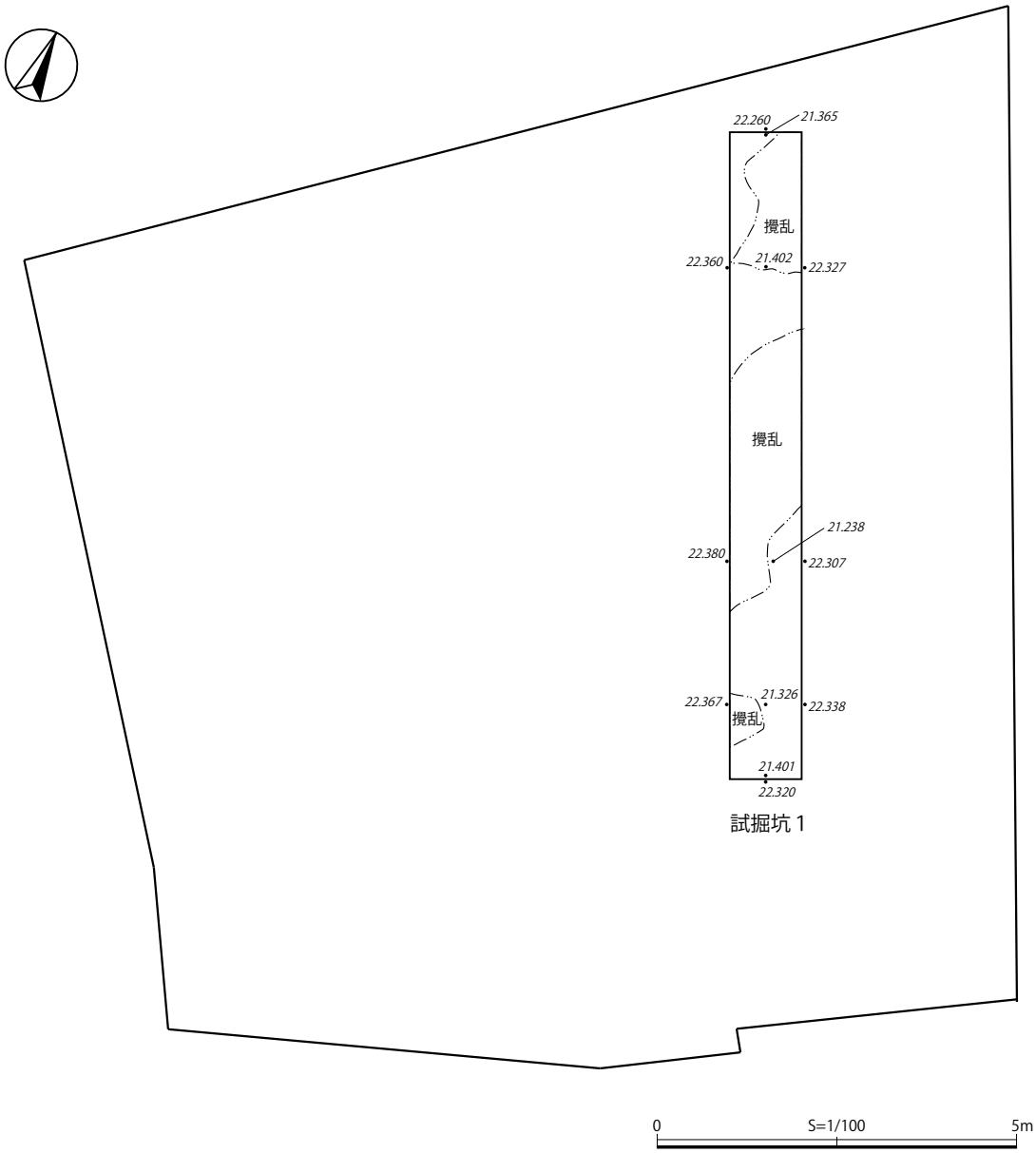


第 21 図　田端 1-24 地点　調査平面図

試掘坑 1 全景（北側から）

試掘坑 1 土層堆積状況（北側から）

図版 19　田端 1-24 地点

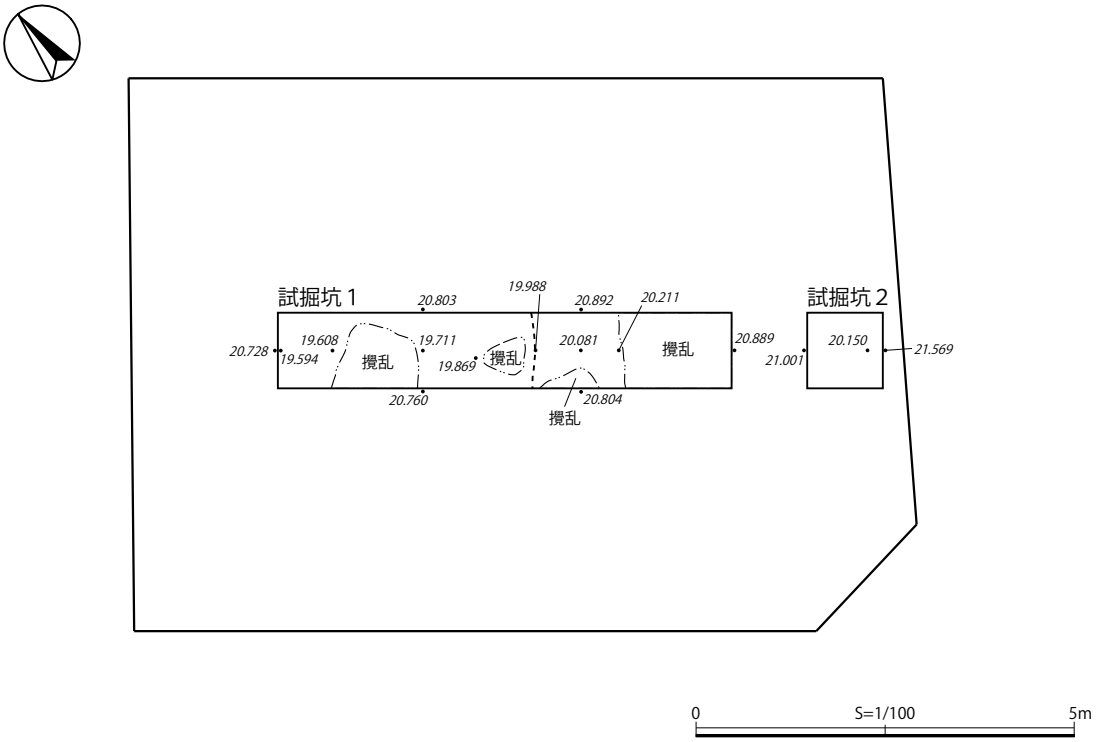


第 22 図　中十条 1-26-9 地点　調査平面図

試掘坑全景（東側から）

調査区全景（東側から）

図版 20　中十条 1-26-9 地点



第 23 図　西ヶ原 3-7-15 地点　調査平面図

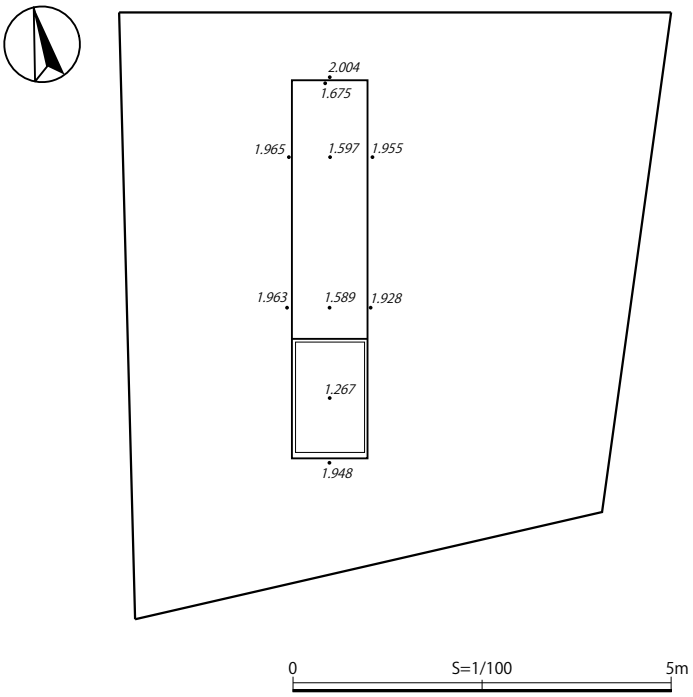
調査地点全景（南東側から）

試掘坑 1・2 全景（南東側から）

試掘坑 1 土層堆積状況（南側から）

試掘坑 2 土層堆積状況（南西側から）

図版 21　西ヶ原 3-7-15 地点



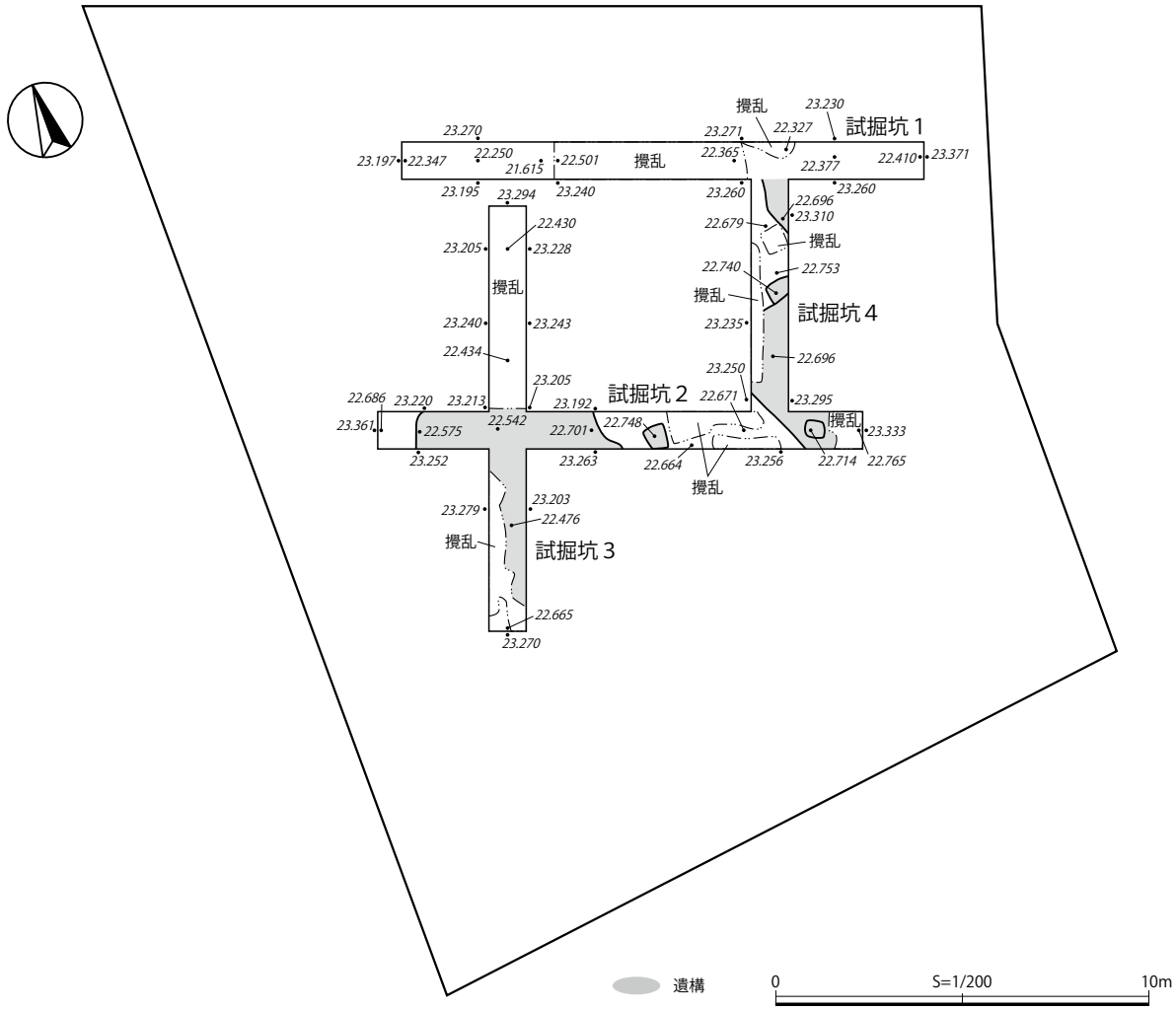
第 24 図　志茂 3-8 地点　調査平面図

調査地点全景（南側から）

試掘坑 1 土層堆積状況（西側から）

試掘坑 1 全景（南側から）

図版 22　志茂 3-8 地点



第 25 図　中里 3-11-13 地点　調査平面図

調査地点全景（西側から）

試掘坑 1 全景（西側から）

図版 23　中里 3-11-13 地点（1）

試掘坑 1 東端堆積状況（北側から）

試掘坑 1 攪乱状況（西側から）

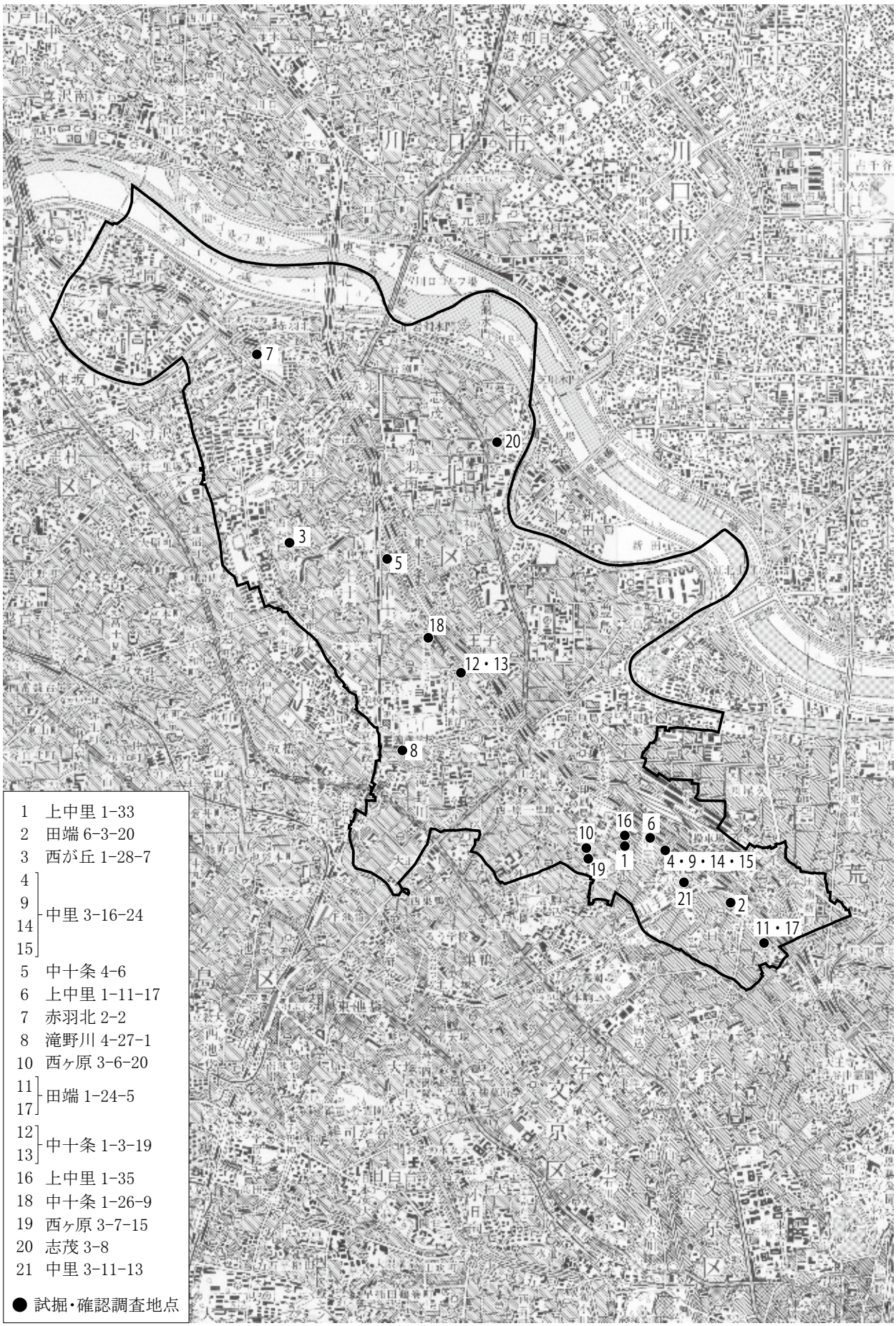
試掘坑 2 全景（東側から）

試掘坑 2 東端堆積状況（南側から）

試掘坑 2・4 交差地点遺構検出状況（南西側から）

試掘坑 3 全景（南側から）

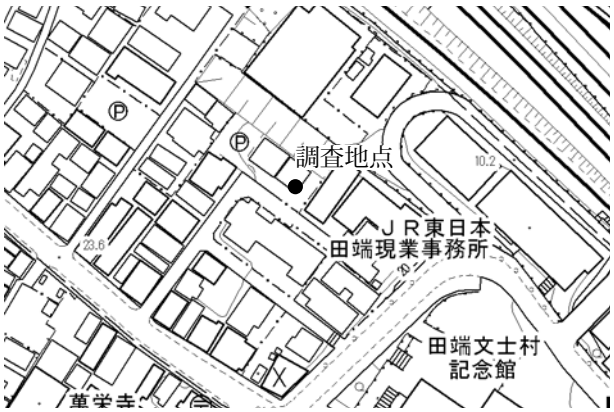
図版 24　中里 3-11-13 地点（2）



第 26 図　国庫補助金対象事業調査地点位置図（S=1/50,000）

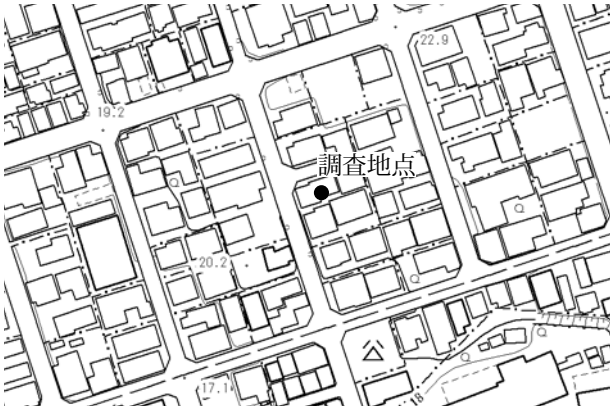
1．上中里 1-33

5．中十条 4-6

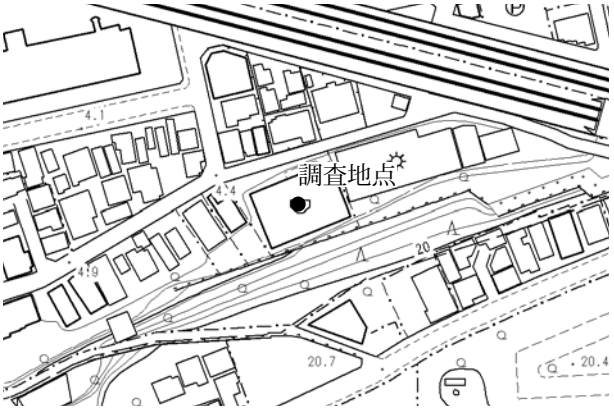


2．田端 6-3-20

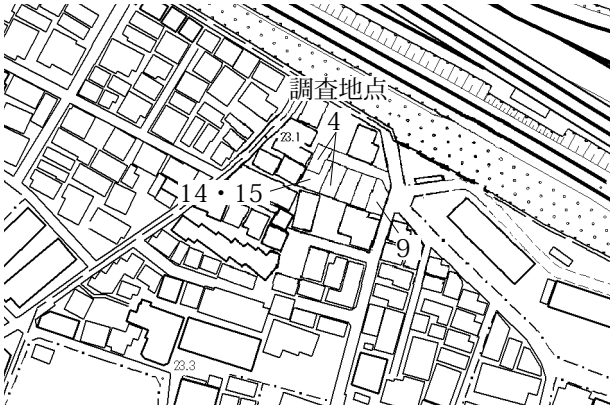
6．上中里 1-11-17



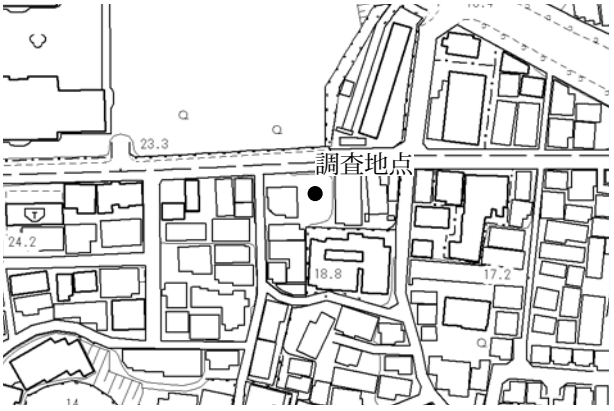
3．西が丘 1-28-7



7．赤羽北 2-2



4・9・14・15. 中里 3-16-24

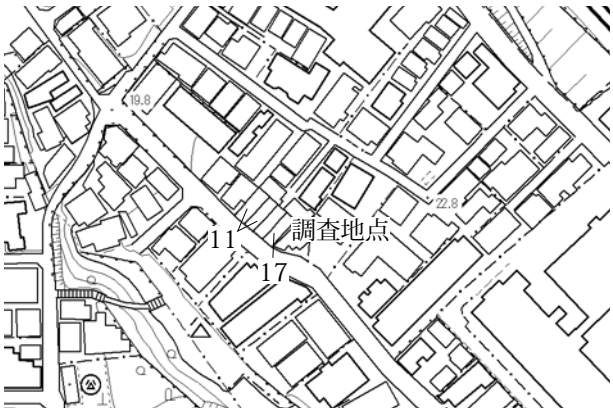


8．滝野川 4-27-1

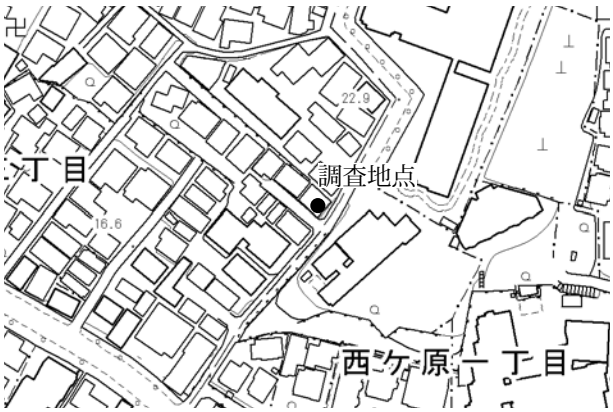
第 27 図　国庫補助金対象事業調査地点詳細図①（S=1/2,500）

10. 西ヶ原 3-6-20

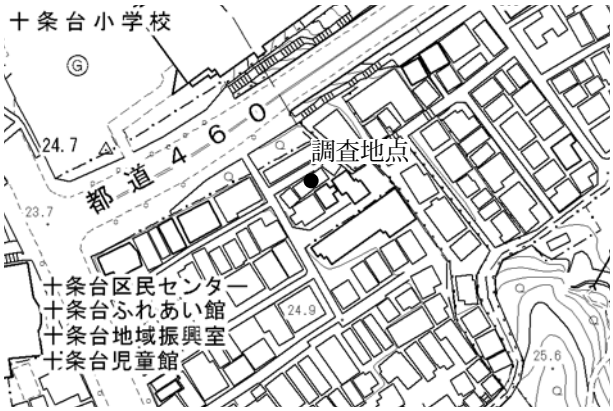
18. 中十条 1-26-9



11・17. 田端 1-24

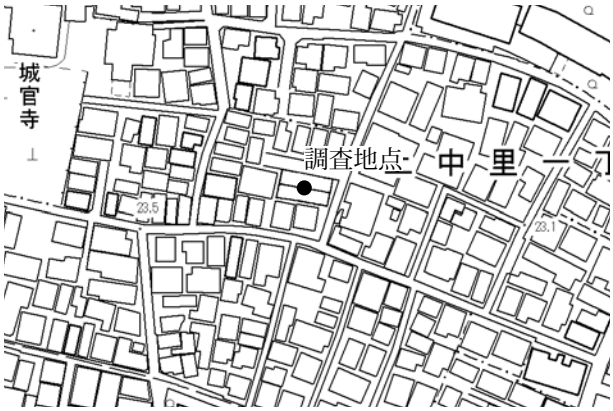


19. 西ヶ原 3-7-15



12・13. 中十条 1-3-19

20. 志茂 3-8



16. 上中里 1-35

21. 中里 3-11-13

第 28 図　国庫補助金対象事業調査地点詳細図②（S=1/2,500）

西ヶ原遺跡群
－上中里 1-35 地点－発掘調査報告

西ヶ原遺跡群

－上中里 1-35 地点－発掘調査報告

はじめに

本調査報告は平成 29（2017）年１～２月に東京都北区上中里１-35 において、北区教育委員会を調査主体者とし株式会社東京航業研究所の調査支援により実施した西ヶ原遺跡群の発掘調査の成果をまとめたものである。なお、調査費用については、事業主である（株）オープンハウス・ディベロップメントが負担した。

1. 調査に至る経緯

平成 29 年９月 22 日付で、（株）オープンハウス・ディベロップメントより、上中里１-35 における住宅建設計画に伴い、文化財保護法（以下、法）第 93 条第１項に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出された。これに対して東京都教育委員会教育長は、同年 10 月２日付「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」（29 教地管理第 2125 号）により試掘調査の必要性があることを通知した。

同年 12 月 25 日に試掘調査を実施したところ、遺構の存在が確認されたため、平成 30 年１月 25 日から２月５日まで北区教育委員会を調査主体として法第 99 条に基づき本発掘調査を行った。

2. 遺跡の立地と環境（第１図　表１）

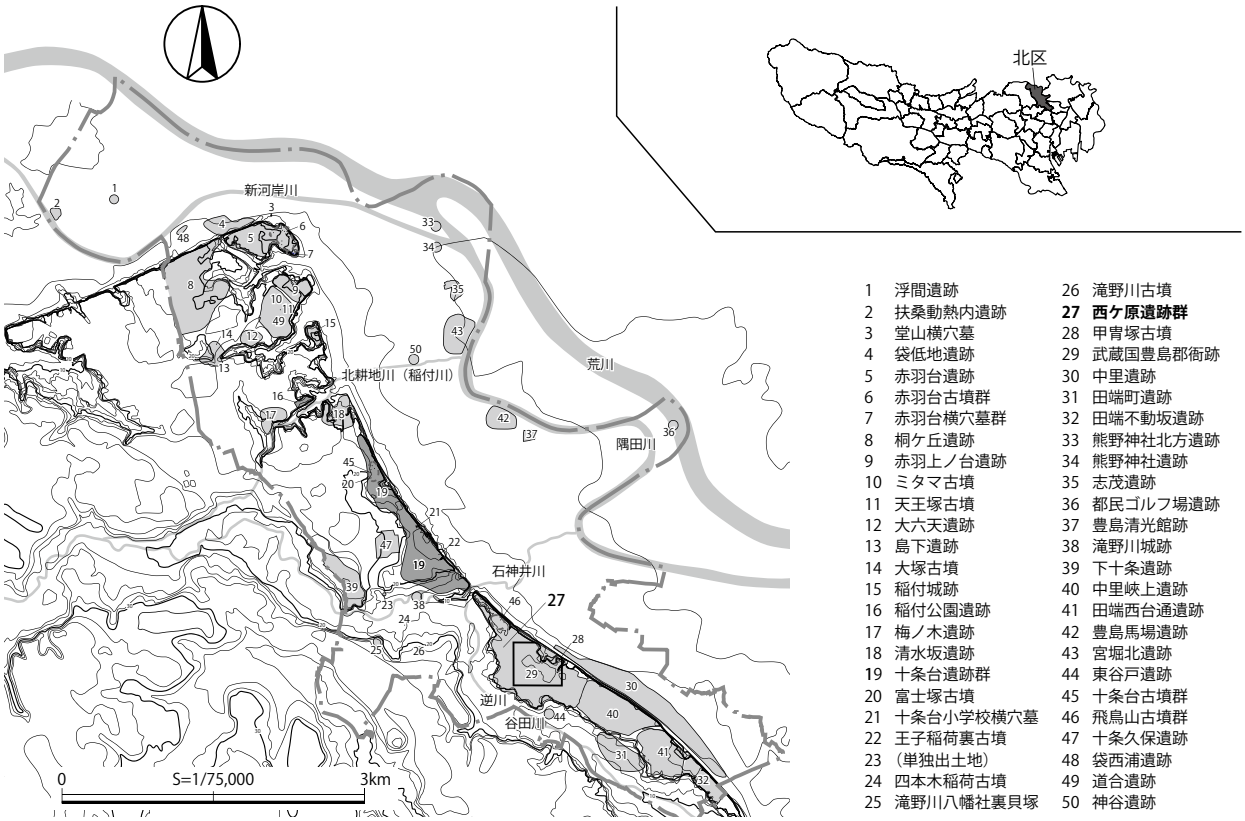
西ヶ原遺跡群がある北区は東京都の北東端に位置し、北側を埼玉県川口市、東側を足立区、荒川区、南側を豊島区、西側を板橋区と接している。北区の地形を大きく見てみると、北側から東側には低地部が、西側から南側にかけては、台地部が位置している。東京低地と呼称される低地部には、現在、荒川・隅田川・新河岸川の河川が北西から南西に流れている。これらの河川は古代より幾度となくその流路を変えていたと思われ、それに伴い自然堤防を発達させてきた。現在は比較的平坦な地形で分かりづらいが、この自然堤防上に遺跡が営まれている。

一方台地部は、武蔵野台地の北東端部に位置している。周辺は本郷台と呼ばれる支台が展開する。本郷台は東側を東京低地に、西側を谷田川により区切られている。この本郷台上には縄文時代から平安時代にかけての遺跡が多数存在している。石神井川以南に限ってみても西ヶ原遺跡群の他に、中里峡上遺跡、田端西台通遺跡、田端不動坂遺跡、田端町遺跡がそれぞれ間隙なく存在している。また西ヶ原遺跡群とは、飛鳥山遺跡、七社神社裏遺跡、七社神社前遺跡、御殿前遺跡、西ヶ原貝塚などを総称した呼称であるが、現状では先に挙げた遺跡とも密接にかかわり、分かちがたいものであるのが実態であろう。以下西ヶ原遺跡群を中心にその概要を述べる。

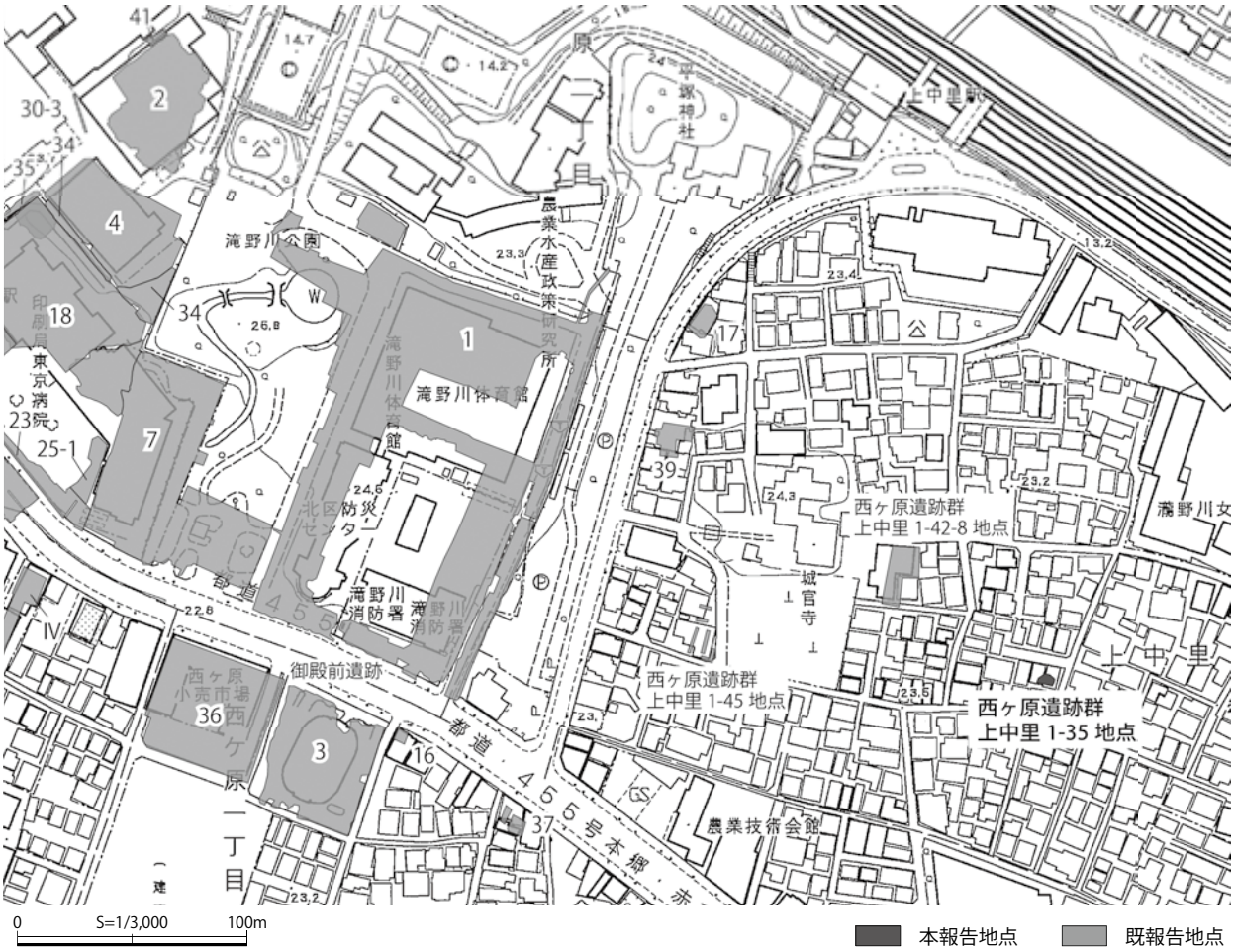
旧石器時代では御殿前遺跡でナイフ形石器が出土している。

縄文時代では、前期前葉以降集落が営まれる。それ以前では、飛鳥山遺跡・御殿前遺跡で撚糸文土器が、御殿前遺跡で条痕文土器が出土している。前期では飛鳥山遺跡・御殿前遺跡で関山式期から集落が見つかっている。黒浜式期では御殿前遺跡において前代から継続して集落が営まれる。この他に、七社神社前遺跡・田端西台通遺跡・田端不動坂遺跡でも住居跡が見つかっている。七社神社前遺跡はその後の諸磯式期以降も集落が継続して営まれる。

前期末葉から中期初頭では遺跡が希薄になる。中期中葉では七社神社裏遺跡で勝坂式期の、中期後半で



1 浮間遺跡
2 扶桑動熱内遺跡
3 堂山横穴墓
4 袋低地遺跡
5 赤羽台遺跡
6 赤羽台古墳群
7 赤羽台横穴墓群
8 桐ケ丘遺跡
9 赤羽上ノ台遺跡
10 ミタマ古墳
11 天王塚古墳
12 大六天遺跡
13 島下遺跡
14 大塚古墳
15 稲付城跡
16 稲付公園遺跡
17 梅ノ木遺跡
18 清水坂遺跡
19 十条台遺跡群
20 富士塚古墳
21 十条台小学校横穴墓
22 王子稲荷裏古墳
23 （単独出土地）
24 四本木稲荷古墳
25 滝野川八幡社裏貝塚
26 滝野川古墳
27 西ケ原遺跡群
28 甲冑塚古墳
29 武蔵国豊島郡衙跡
30 中里遺跡
31 田端町遺跡
32 田端不動坂遺跡
33 熊野神社北方遺跡
34 熊野神社遺跡
35 志茂遺跡
36 都民ゴルフ場遺跡
37 豊島清光館跡
38 滝野川城跡
39 下十条遺跡
40 中里峡上遺跡
41 田端西台通遺跡
42 豊島馬場遺跡
43 宮堀北遺跡
44 東谷戸遺跡
45 十条台古墳群
46 飛鳥山古墳群
47 十条久保遺跡
48 袋西浦遺跡
49 道合遺跡
50 神谷遺跡



第１図　北区の地形と遺跡及び調査地点位置図

①西ヶ原遺跡群

地点名	所在地	報告書	発行年	縄文	弥生～古墳前	古墳後～平安	備考	報告地点名
上中里 1-42-8 地点	上中里 1-42-8	区内遺跡発掘調査報告	平成 17 年	―	―	―	中・近世地下式壙、溝、井戸	
上中里 1-45 地点	上中里 1-45	北区埋蔵文化財調査年報	平成 26 年	土坑	―	―	近世竪穴状遺構	
上中里 1-35 地点	上中里 1-35	北区埋蔵文化財調査年報	平成 30 年	―	―	住居跡		

②御殿前遺跡

地点名	所在地	報告書	発行年	縄文	弥生～古墳前	古墳後～平安	備考	報告地点名
第 1 地点	西ヶ原 2-1	御殿前遺跡Ⅰ	昭和 63 年	住居跡(前～後期)	住居跡、方形周溝墓	正倉大溝、掘立柱建物跡、円形有段遺構、住居跡	郡庁、中世溝	農業技術研究所跡
第 2 地点	西ヶ原 2-3-15	御殿前遺跡Ⅱ	平成元年	住居跡（早期後半～前期初頭）	住居跡	正倉大溝、掘立柱建物跡、円形有段遺構、住居跡	正倉院入口	大蔵省印刷局滝野川工場
第 3 地点	西ヶ原 1-30	御殿前遺跡Ⅲ	平成 4 年	―	―	―	中世地下式壙	西ヶ原 1 丁目 30 番地
第 4 地点	西ヶ原 2-3-15	御殿前遺跡Ⅳ	平成 6 年	―	住居跡	正倉大溝、掘立柱建物跡、大型土坑	中世溝、道路	大蔵省印刷局滝野川工場
第 7 地点	西ヶ原 2-3-6	御殿前遺跡Ⅴ	平成 9 年	―	住居跡	掘立柱建物跡、溝	中世溝、道路	
第 16 地点	西ヶ原 1-29-7	―	―	―	―	―	中世溝等	
第 17 地点	上中里 1-46-12	―	―	住居跡（中期）	方形周溝墓、溝	―	東京都遺跡調査・発表会 20 掲載	
第 18 地点	西ヶ原 2-3-6	御殿前遺跡Ⅵ	平成 12 年	土坑	住居跡、土坑	掘立柱建物跡、溝、大型土坑	近世溝、近世道路、近世建物	
第 23 地点	西ヶ原 2-3-6	御殿前遺跡Ⅶ	平成 15 年	土坑（中期）	住居跡	正倉大溝	―	
第 25 地点	西ヶ原 2-3-6	御殿前遺跡Ⅶ	平成 15 年	ピット群	住居跡、掘立柱建物跡	正倉大溝、住居跡	中世溝、近世柵列、溝、土坑	
第 30 地点	西ヶ原 2-3-15	東京都北区西ヶ原遺跡群	平成 22 年	住居跡、土坑	住居跡、方形周溝墓	正倉大溝、掘立柱建物跡、住居跡	―	
第 34 地点	西ヶ原 2-3-6	御殿前遺跡	平成 25 年	―	住居跡	正倉大溝、掘立柱建物跡、	中世溝、近世溝	
第 35 地点	西ヶ原 2-3-6	御殿前遺跡	平成 25 年	―	住居跡	溝	―	
第 36 地点	西ヶ原 1-31	御殿前遺跡	平成 24 年	住居跡（前期）	住居跡	掘立柱建物跡、溝	中世墓壙、地下式坑、溝跡	
第 37 地点	西ヶ原 1-28-2	北区埋蔵文化財調査年報	平成 25 年	―	住居跡	住居跡	―	
第 39 地点	上中里 1-46-4	北区埋蔵文化財調査年報	平成 26 年	住居跡（中期）、埋甕炉	住居跡、方形周溝墓	回廊	方形周溝墓主体部鉄剣 郡庁院回廊	
第 41 地点	西ヶ原 2-3-15	御殿前遺跡	平成 28 年	住居跡(前・中期)、土坑	住居跡、方形周溝墓	掘立柱建物跡、礎石建物跡、大形土坑	―	

③西ヶ原貝塚

地点名	所在地	報告書	発行年	縄文	弥生～古墳前	古墳後～平安	備考	報告地点名
第Ⅳ地点	西ヶ原 3-1-9	西ヶ原貝塚Ⅱ東谷戸遺跡	平成 6 年	住居跡（後期）、貝層	―	―	中世溝	(仮）小泉ビル

表１　西ヶ原遺跡群調査地点一覧表

は御殿前遺跡で集落が営まれる。

西ヶ原貝塚は中期後半以降集落が形成され、後期を通じ継続する集落であり、馬蹄形の貝塚が形成される。また、近年の調査からは晩期中葉の安行Ⅲｄ式が出土しており、晩期前葉以降も人々の痕跡が確認できる。

弥生時代では、飛鳥山遺跡で宮ノ台式期の環濠集落が形成される。弥生時代後期後半になると西ヶ原遺跡群の全域にわたって集落が形成される。

弥生時代後期末から古墳時代前期になると、今まで西ヶ原遺跡群全体に認められた集落は縮小し、御殿前遺跡に収斂される。後期になると、飛鳥山遺跡で５基の古墳からなる群集墳が認められる。

古代では武蔵国豊島郡衙跡に比定される御殿前遺跡・七社神社前遺跡がある。郡衙の周辺では、同時期の住居跡が見つかっており、７世紀以降継続して認められる。今回の調査で検出された住居跡も郡衙周辺に認められるこうした住居跡の一つである。調査地点の標高は 22 m前後である。

3. 調査の経過と概要

調査期間は平成 30 年１月 25 日～２月５日、調査面積は 22.6 ㎡である。１月 25 日に発掘機材と重機を搬入し、調査区北西側から表土掘削を開始した。確認面はソフトローム（立川ローム第Ⅲ層）上面の地表下約 0.6 ～ 0.7 mである。遺構確認終了後、直ちに遺構精査を開始し、適宜図面作成･写真撮影を行い、２月１日全景写真を撮影し、２月５日重機により埋め戻し作業及び機材の撤収をし、調査を終了した。

遺構は竪穴住居跡１軒で、北側に竈を持つ７世紀後半のものである。遺物は竈付近の床面上から土師器の坏・甕・甑が出土した。

4. 遺構と遺物

【SI01】

遺構（第２・３図　図版１）

平面形：隅丸方形を呈するものと思われるが、調査区西端に位置するため全景を明らかにすることはできなかった。**規模：**長軸 4.60 m、短軸 4.34 mで、住居跡の全体の３/ ４程を調査したものと思われる。**主軸方位：**N － 47° － W。**覆土：**中層（３層）に多量にロームブロックを含む層があることから、自然堆積の後、人為的に埋め戻されたものと思われる。**壁及び床面：**壁は北東の一部を除き、直線的に立ち上がる。最も残りの良い西隅付近で 0.58 mである。床は西隅付近を除き平坦である。掘りこんだロームを踏みしめ床をつくっているが､北及び東隅部分は黒褐色土とロームブロックによる貼床が一部で見られる。竈前面及び柱穴で囲まれた内側を中心に硬化している。南西側では、柱穴を結んだラインより西側及び南側に硬化面が認められた。このことから、住居の入り口部は通常想定される竈正面の南壁側以外に西壁側にあった可能性もある。**壁溝：**壁に沿って巡る。幅は 0.15~0.26m 程で、深さは 0.22m 程である。**柱穴：**調査区内では３本検出された。南西側の１本は調査区外に位置するものと思われ、４本主柱の住居跡である。検出された柱穴はいずれも柱痕跡は認められず、柱は抜き取られていた。Ｐ１が 0.67 × 0.39 m、深さ 0.75 m、Ｐ２が 0.53 × 0.52 m、深さ 0.77 m、Ｐ３が 0.71 × 0.52 m、深さ 0.76 mである。いずれの柱穴も住居の中心部側がテラス状になる。これは柱を抜き取った際の痕跡であろう。おそらく柱穴の堀り方の大きさは概ね 0.40 ～ 0.50 m程であると思われる。柱の中心を結んだラインは方形で、住居の平面形とほぼ相似形をなす。**竈：**北壁中央付近に付設されている。規模は 1.19 × 1.11 mで、住居北西壁に対してほぼ直角に築かれていた。黄褐色粘土で構築されていたが、残りは良好ではなく全体に崩れており､竈前面に崩れた粘土が堆積していた。そのため竈は左右の袖の一部が遺存しているに過ぎなかった。

右袖に比べ左袖の方がやや残りが良く、内側が被熱により部分的に赤化していた。燃焼部は 0.79 × 0.51 m程の楕円形で、住居跡の床面を僅かに掘りこみ築かれていたが、赤化した部分は認められず、火処を明確にはできなかった。煙道部の立ち上がりは、住居の壁の立ち上がりに比べ緩やかで、壁より 0.45 m外側に延びる。**貯蔵穴：**竈の西側に位置し周堤を持つ。平面形は 0.70 × 0.69 mの不整円形で、深さは 0.22 mである。底面は平坦で西側は緩やかに立ち上がり、周堤を持つ東側がやや急角度で立ち上がっている。

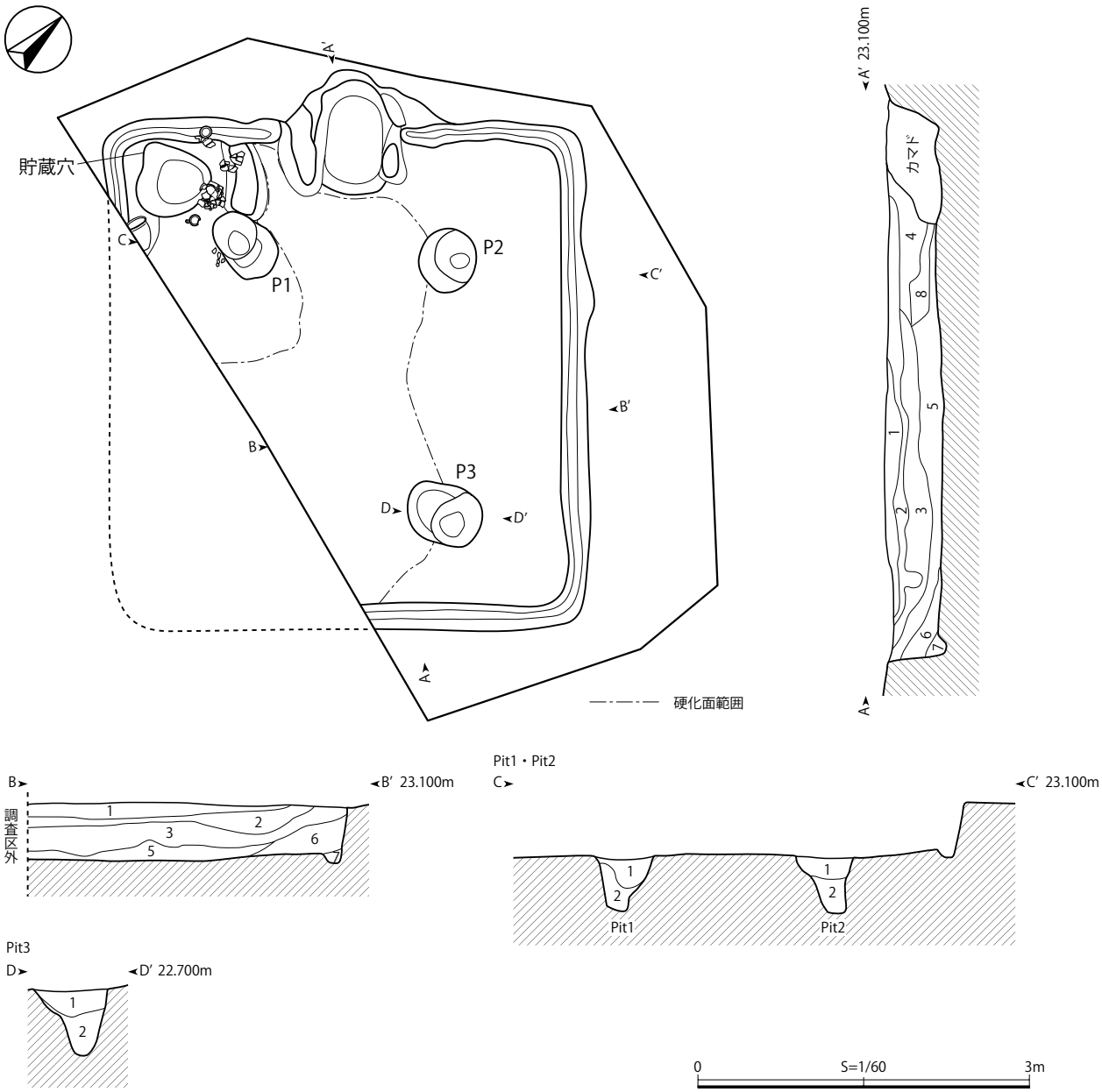
遺物（第４図　図版２　表２）

出土状況：遺物は竈西側の床面付近で多数出土している。一方、覆土中層から上層にかけては、小破片あるいは時期の異なる流れ込みと思われるものが出土したのみであった。覆土中で図化したものは４と縄文土器の７・８であり、その他はほぼ床面上から出土している。

特に竈西側の貯蔵穴周辺で見つかっている。坏は完形あるいはそれに準ずるものが土圧により、床面上でつぶれた状態で出土している。また、１は壁溝上から出土していることから、住居廃絶後、投棄あるいは棚などから転落した可能性がある。５は床面上から土圧により押しつぶされた状態で出土し、土器の中に覆土を介在しない。一方６は床面上からの出土であるが、完形のため内部に焼土と灰を多量に含む覆土が認められる。この６の内部に認められた覆土は、住居内の覆土には認められないことから、理由は不明確であるが、人為的に充填された可能性が高い。**土器：**１～４は丸底の坏である。底部はヘラケズリされ、口縁部内外面は強く横ナデされる。１は口唇部が磨滅しており、使い込んだ様子が認められる。また、口縁部直下に帯状の煤の付着が認められることから、灯明皿として使用されたものと思われる。底部外面には直線状の擦痕が多数みられることから、鉄器を研いだものと思われる。４は比企型坏で、内面及び口縁部外面が赤彩される。口縁部内面直下に僅かに段差をもつ。５は丸底を呈する小型の甕である。胴部を上から下にヘラケズリ後、底部を横ケズリしている。その後、部分的に胴部にミガキを有する。６は甑で、胴部は縦位にヘラケズリを施す。外面に黒斑が認められる。７・８は覆土中から出土したものである。７は黒浜式、８は加曽利ＥⅢ式である。いづれも流れ込みである。

１～６が本住居跡に伴う遺物で、７世紀後半のものと思われる。

時期　７世紀後半。



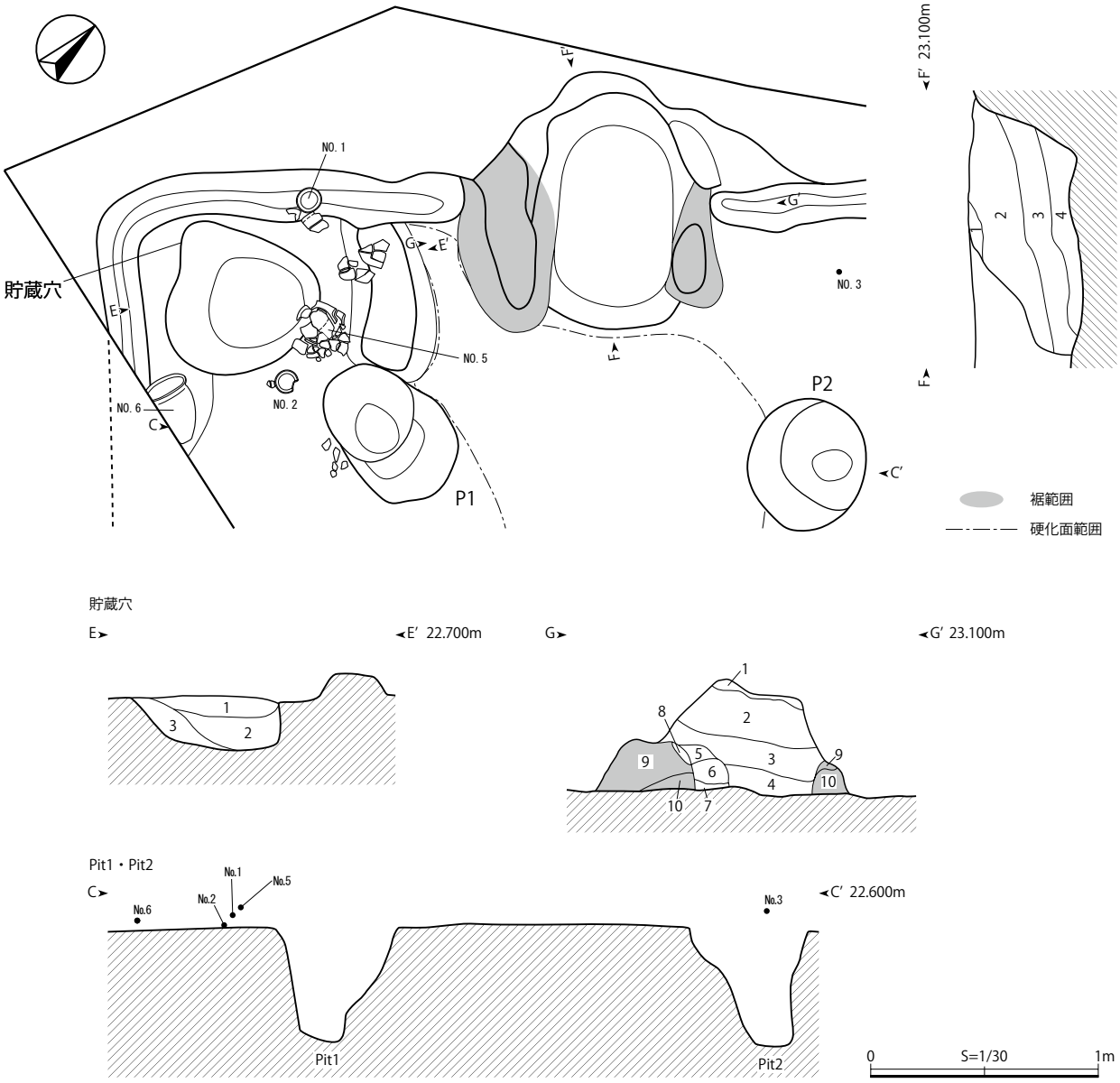
SI01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土（7.5YR3/2）	なし	なし	φ10 ㎜程のロームブロック・ローム粒子を多量に含む。
2	暗褐色土（7.5YR3/4）	なし	なし	ローム粒子を多量に含む。
3	暗褐色土（7.5YR3/4）	なし	あり	ロームブロック（φ30 ～ 50 ㎜）を多量に、黒褐色土ブロック（φ30 ～ 50 ㎜）を少量含む。
4	暗褐色土（7.5YR3/4）	ややあり	なし	ローム粒子・焼土粒子を含む。黄褐色粘土ブロック（φ20 ～ 30 ㎜）を少量含む。
5	極暗褐色土（7.5YR2/3）	なし	なし	ロームブロック（φ10 ～ 30 ㎜）を多量に含む。
6	暗褐色土（7.5YR3/3）	ややあり	なし	ローム粒子を多量に、ロームブロック（φ10 ～ 20 ㎜）を少量含む。
7	暗褐色土（7.5YR3/4）	あり	なし	ローム粒子を多量に、ロームブロック（φ10 ～ 20 ㎜）・黒褐色土ブロック（φ20 ～ 30 ㎜）を少量含む。
8	褐色土（10YR4/6）	あり	なし	カマドが崩れたもの。黄褐色粘土ブロック（φ30 ～ 50 ㎜）を多量に、ローム粒子・焼土粒子を含む。

PIT1 ～ 3

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土（7.5YR3/1）	なし	なし	ロームブロック（φ5 ～ 10 ㎜）を多量に、ローム・焼土粒子を含む。
2	褐色土（7.5YR4/4）	あり	なし	ローム粒子を多量に含む。

第２図　上中里 1-35 地点　SI01 平・断面図



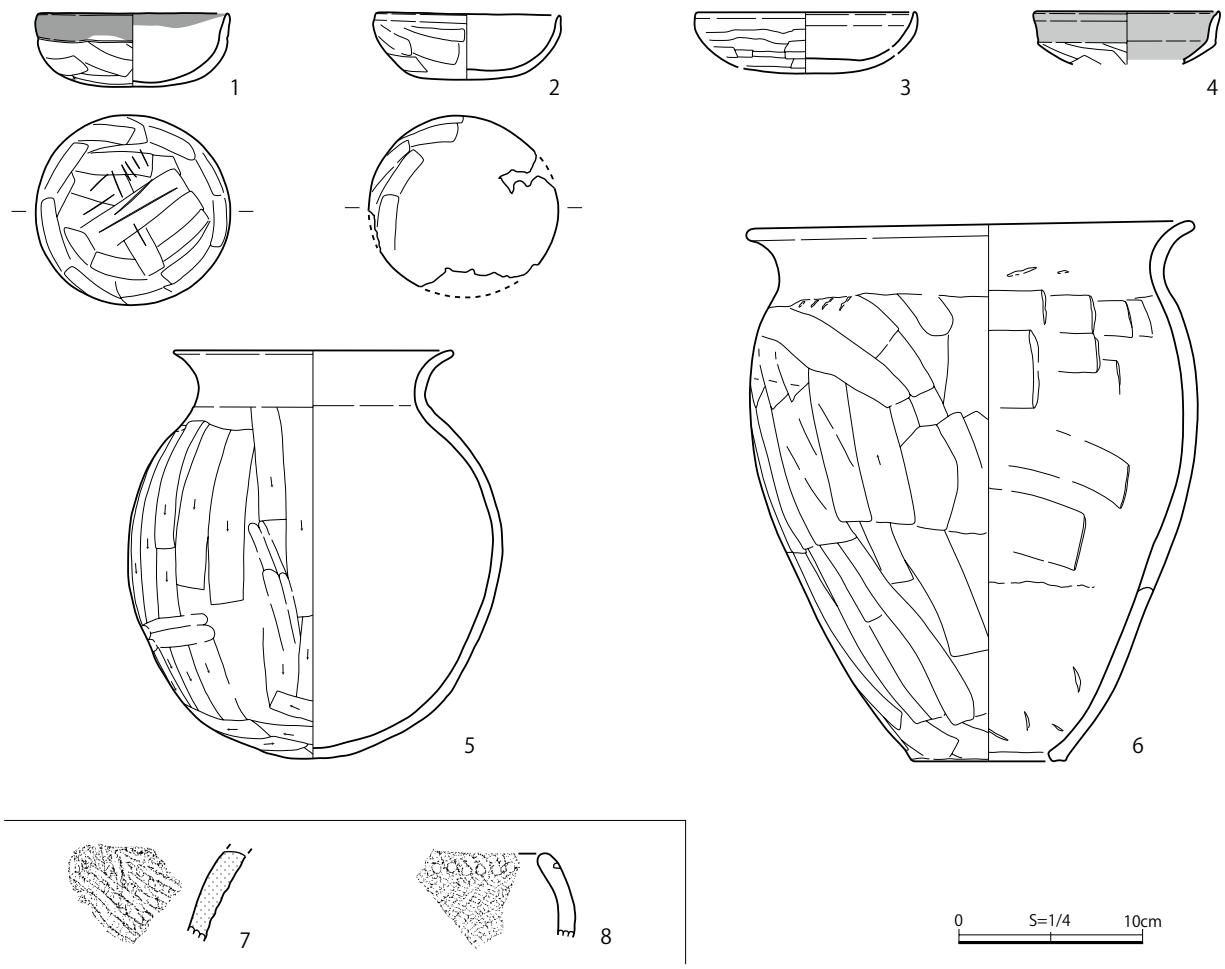
カマド

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土（7.5YR3/1）	なし	なし	黄褐色土粘土ブロック（φ50 ㎜程）を多量に、焼土粒子を少量含む。カマド天井部の崩落土。
2	SI01A-A′ 4 層起源	なし	なし	焼土ブロック（φ20 ～ 30 ㎜）・粘土ブロック（φ10 ～ 30 ㎜）を少量含む。
3	SI01A-A′ 8 層起源	なし	なし	焼土・黄褐色粘土ブロック（φ20 ～ 50 ㎜）を少量含む。天井崩落土を含む。
4	SI01A-A′ 4 層起源	ややあり	ややあり	焼土・黄褐色粘土ブロック（φ10 ～ 20 ㎜）・焼土粒子を多量に含む。
5	暗褐色土（7.5YR3/4）	ややあり	なし	焼土ブロック（φ5 ～ 10 ㎜）・焼土粒子を多量に含む。
6	にぶい橙色土（7.5YR6/4）	あり	なし	黄褐色土（φ30 ～ 50 ㎜）主体。焼土粒子を少量含む。
7	黒褐色土（7.5YR3/1）	なし	ややあり	ローム・焼土粒子を少量含む。
8	にぶい赤褐色土（2.5YR5/4）	あり	なし	焼土主体。裾が被熱で赤化したもの。
9	浅黄橙色土（10YR8/3）	ややあり	ややあり	黄褐色粘土主体。カマドの裾部。
10	褐色土（10YR4/4）	ややあり	ややあり	黄褐色粘土ブロック（φ10 ～ 20 ㎜）を少量含む。カマドの裾部。

SI01 貯蔵

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土（7.5YR3/2）	あり	ややあり	ローム粒子を多量に、ロームブロック（φ10 ～ 20 ㎜）を含む。
2	褐色土（10YR4/6）	ややあり	ややあり	ロームブロック（φ20 ～ 30 ㎜）・ローム粒子を多量に含む。
3	にぶい黄橙色土（10YR7/4）	強い	なし	ロームを主体とする層。

第 3 図　上中里 1-35 地点　SI01 カマド・貯蔵穴平・断面図・遺物出土図



第４図　上中里 1-35 地点　出土遺物実測図

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	法量（cm）	遺存状態	色調	胎土	焼成	形態・成形・技法の特徴	備考
4-1 2-1	土師器 坏	SI01	口径：10.3 器高：10.3 底径：4.0	ほぼ完形	浅黄橙色 （7.5YR8/6）	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子	良好	口縁部は直立し、底部は丸底を呈する。口縁部と底部の境は沈線状の段差が認められる。底部外面は中央部をヘラケズリ後、周辺部をヘラケズリする。内面はナデ。口縁部内外面強い横ナデ。口唇部摩滅する。口縁部内外面に黒色化する。底部外面擦痕あり。	
4-2 2-2	土師器 坏	SI01	口径：10.0 器高：10.2 底径：3.6	口縁部 2/3 底部 遺存	明赤褐色 （5YR5/6）	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・白色針状物質	良好	丸底の底部から内湾しながら立ち上がり、口縁部はやや内傾する。口縁部と底部の境に僅かに段が認められる。底部外面は中央部ヘラケズリ後、周辺部ヘラケズリ、その後ナデ。内面ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。	
4-3 2-3	土師器 坏	SI01	口径：(12.0) 器高：　3.4 底径：(12.2)	口縁部 1/4 底部 遺存	橙色 （5YR6 /6）	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲母	良好	平底の近い底部から内湾しながら口縁部に至る。底部外面ヘラケズリ。内面ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。	
4-4 2-4	土師器 坏	SI01	口径：10.0 器高：　2.9	口縁部～胴部 1/4	にぶい褐色 （7.5YR5/4）	白色粒子・黒色粒子・礫	良好	底部は丸底を呈し、口縁部は僅かに外反する。内面口縁部直下凹線状の段差が見られる。底部外面ヘラケズリ、内面ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。内面及び口縁部外面赤彩。比企型坏。	
4-5 2-5	土師器 甕	SI01	口径：15.2 器高：22.3	口縁部～胴部 1/4 底部 遺存	にぶい黄橙色 （10YR6/4） 黒褐色 （10YR3/2）	白色粒子・黒色粒子・礫	良好	底部は丸底を呈し、胴部中位に最大径を持つ。頸部は直立し口縁部が強く外反する。胴部外面上から下にヘラケズリ後、底部付近横ケズリ。その後一部ミガキ。内面横ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。胴部外面全体的に黒色化。	
4-6 2-6	土師器 甑	SI01	口径：24.4 器高：29.4 底径：8.4	完形	にぶい橙色 （7.5YR6/4）	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・礫	良好	底部から内湾しながら立ち上がり、胴部上半に最大径を持つ。口縁部は外反する。胴部外面斜位及び縦ケズリ。内面横ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。	
4-7 2-7	縄文土器 深鉢	SI01		破片	内外面：にぶい橙色 （7.5YR6/4） 断　面：褐灰色 （7.5YR4/1）	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・礫	良好	無節 L 横位施文。繊維を含む。黒浜式。	
4-8 2-8	縄文土器 深鉢	SI01		破片	にぶい黄橙色 （10YR6/4）	白色粒子・黒色粒子・角閃石	良好	RL を縦横に施文した後。口縁部沿って棒状工具で円形刺突を施す。加曽利 E3 式。	

表２　上中里 1-35 地点　遺物観察表

SI01 全景（北東から）

カマド崩落状況（北東から）

カマド完掘状況（南東から）

貯蔵穴完掘状況（南東から）

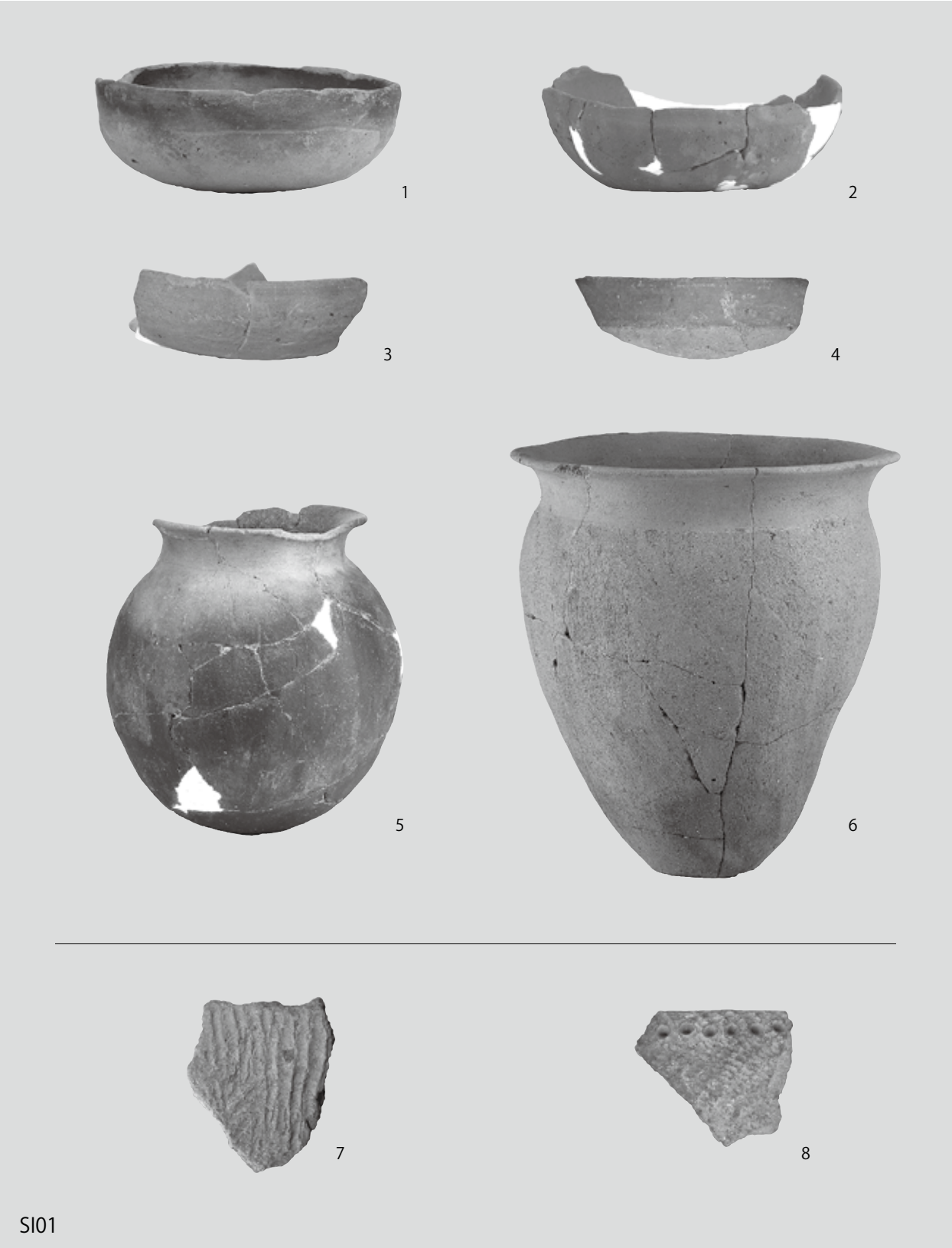
遺物出土状況①（北東から）

遺物出土状況②（南東から）

遺物出土状況③（北西から）

遺物出土状況④（北東から）

図版 1　上中里 1-35 地点



図版２　上中里 1-35 地点　出土遺物

報告書抄録

ふりがな	きたくまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう
書　　名	北区埋蔵文化財調査年報
副 書 名	－平成 29 年度－
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	宅間清公　遠竹陽一郎　牛山英昭
編集機関	東京都北区教育委員会事務局　飛鳥山博物館
所 在 地	〒 114-0002　東京都北区王子 1 - 1 - 3　　℡ 03(3916)1133
発行年月日	平成 31（2019）年 2 月 15 日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査	調査原因
所収遺跡	所 在 地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″	（発掘調査）	面積	
にしがはらいせきぐん 西ヶ原遺跡群	とうきょうときたくかみなかざと 東京都北区上中里 1-33	13117	27	巻頭一覧表参照				
たばたにしだいどおりいせき 田端西台通遺跡	とうきょうときたくたばた 東京都北区田端 6-3-20		41					
うめのきいせき 梅ノ木遺跡	とうきょうときたくにしがおか 東京都北区西が丘 1-28-7		17					
なかざとはけうえいせき 中里峡上遺跡	とうきょうときたくなかざと 東京都北区中里 3-16-24		40					
しみずざかいせき 清水坂遺跡	とうきょうときたくなかじゅうじょう 東京都北区中十条 4-6		18					
なかざとはけうえいせき 中里峡上遺跡	とうきょうときたくかみなかざと 東京都北区上中里 1-11-17		40					
ふくろていちいせき 袋低地遺跡	とうきょうときたくあかばねきた 東京都北区赤羽北 2-22		4					
しもじゅうじょういせき 下十条遺跡	とうきょうときたくたきのがわ 東京都北区滝野川 4-27-1		39					
なかざとはけうえいせき 中里峡上遺跡	とうきょうときたくなかざと 東京都北区中里 3-16-24		40					
にしがはらかいづか 西ヶ原貝塚	とうきょうときたくにしがはら 東京都北区西ヶ原 3-6-20		27					
たばたふどうさかいせき 田端不動坂遺跡	とうきょうときたくたばた 東京都北区田端 1-24		32					
じゅうじょうだいいせきぐん 十条台遺跡群 みなみはしいせき （南橋遺跡）	とうきょうときたくなかじゅうじょう 東京都北区中十条 1-3-19		19					
じゅうじょうだいいせきぐん 十条台遺跡群 みなみはしいせき （南橋遺跡）	とうきょうときたくなかじゅうじょう 東京都北区中十条 1-3-19		19					
なかざとはけうえいせき 中里峡上遺跡	とうきょうときたくなかざと 東京都北区中里 3-16-24		40					
なかざとはけうえいせき 中里峡上遺跡	とうきょうときたくなかざと 東京都北区中里 3-16-24		40					
にしがはらいせきぐん 西ヶ原遺跡群	とうきょうときたくかみなかざと 東京都北区上中里 1-35		27					
たばたふどうさかいせき 田端不動坂遺跡	とうきょうときたくたばた 東京都北区田端 1-24		32					
じゅうじょうだいいせきぐん 十条台遺跡群	とうきょうときたくなかじゅうじょう 東京都北区中十条 1-26-9		19					
にしがはらいせきぐん 西ヶ原遺跡群	とうきょうときたくにしがはら 東京都北区西ヶ原 3-7-15		27					
みやぼりきたいせき 宮堀北遺跡	とうきょうときたくしも 東京都北区志茂 3-8		43					
なかざとはけうえいせき 中里峡上遺跡	とうきょうときたくなかざと 東京都北区中里 3-11-13		40					

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間 （発掘調査）	調査 面積	調査原因
にしがはらいせきぐん 西ヶ原遺跡群	とうきょうときたく 東京都北区 かみなかざと 上中里 1-35	13117	27	35° 44′ 40″	139° 44′ 52″	平成 30（2018）年 1 月 25 日 ～ 同年 2 月 5 日	22.6 ㎡	分譲住宅建設

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西ヶ原遺跡群	集落	古墳時代	竪穴住居跡 1 軒	土師器・須恵器	
要　　約	7 世紀後半の竪穴住居跡を調査した。北壁の中央付近に竈を持ち、その西側に周堤が巡る貯蔵穴が位置する。床面は柱穴で囲まれた内側中心に硬化していた。覆土の観察から自然堆積後、人為的に埋め戻されたと考えられる。 遺物は、竈及び貯蔵穴周辺の床面から土師器の坏・甕・甑が出土した。				
資料の保管機関	東京都北区教育委員会事務局　飛鳥山博物館 〒 114-0002　東京都北区王子 1-1-3 TEL03（3916）1133　FAX03（3916）5900				

北区埋蔵文化財調査年報
－平成 29 年度－

平成 31 年 2 月 1 日　印刷
平成 31 年 2 月 15 日　発行

刊行物登録番号
30 － 3 － 045

編集　北区飛鳥山博物館
〒 114-0002　東京都北区王子 1-1-3
電話　03-3916-1133
発行　東京都北区教育委員会
〒 114-8546　東京都北区滝野川 2-52-10
印刷　文明堂印刷株式会社
〒 114-0032　東京都北区中十条 2-15-12
電話　03-3908-3466